

令和4年度

千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会

研究のまとめ

研究主題

「生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成」

～主体的・対話的で深い学びを通して～



千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会

目 次

1	はじめに	千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会長	市原 喜郎	・・・	1
2	千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会活動報告				
	(1) 事務局			・・・	2
	(2) 関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会栃木大会千葉県提案内容				
		技術分野	安房支部	・・・	3
		家庭分野	印旛支部	・・・	7
3	各部活動報告				
	(1) 研究部			・・・	11
	(2) 情報部			・・・	14
	(3) 中学校部			・・・	16
		①	千葉県中学校技術・家庭科作品展		
		②	第18回千葉県中学校創造ものづくり教育フェア		
		③	関東甲信越地区中学校技術・家庭科作品展		
		④	第22回ものづくり教育フェア関東甲信越地区大会		
		⑤	第22回全国中学生創造ものづくり教育フェア		
	(4) 小学校部			・・・	18
4	各支部活動報告				
	(1) 千葉支部			・・・	20
	(2) 市原支部			・・・	22
	(3) 習志野支部			・・・	24
	(4) 八千代支部			・・・	26
	(5) 船橋支部			・・・	28
	(6) 市川支部			・・・	30
	(7) 浦安支部			・・・	32
	(8) 東葛飾支部			・・・	34
	(9) 印旛支部			・・・	36
	(10) 香取支部			・・・	38
	(11) 東総支部			・・・	40
	(12) 山武支部			・・・	42
	(13) 長生支部			・・・	44
	(14) 夷隅支部			・・・	46
	(15) 安房支部			・・・	48
	(16) 君津支部			・・・	50
5	令和4年度役員・地区理事一覧			・・・	52
6	編集後記			・・・	54

1 はじめに

千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会
会 長 市 原 喜 郎

当たり前のことが当たり前にできなくなって、3年が経ちました。もはや、コロナ禍の生活が当たり前のようになりつつありますが、本部会を支えていただく皆様のおかげで、コロナ後を見据えた実践が再び歩み始めていることに、明るい希望を感じます。

そのような中、6月に船橋市立海神中学校で予定していた「令和4年度千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会研究大会船橋大会」は、残念ながら紙面開催とさせていただきます。しかし、「定期総会・生徒作品展」につきましては、一部オンライン形式ではありますが、千葉県技術・家庭教育振興会の関下会長と佐藤前会長のご臨席をいただき、3年ぶりに開催することができました。その後、11月に「令和4年度千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会小学校家庭科研究大会船橋大会」を船橋市立習志野台第二小学校で、参集方式により実施しました。当日は、4つの学級での授業公開、その後の研究発表・講演会と成功裏の中、研究大会を終えることができました。両大会とも、ご準備を進めていただきました船橋支部の先生方をはじめ、関係者の皆様に感謝申し上げます。

さて、本教科の成果を発表する場の一つである「第18回千葉県中学生創造ものづくり教育フェア」につきましては、11月12日に白子町立白子中学校と千葉市立轟町中学校の2会場を中心に、作品審査、オンラインによるプレゼンテーション、質疑応答等を、昨年度同様の形式で開催いたしました。今年度も4部門の成績上位者が関東大会、全国大会への出場権を獲得しました。12月3・4日に開催された「第22回全国中学生創造ものづくり教育フェア関東甲信越地区大会東京都大会」には、本県からもアイデアバッグ部門とロボコン部門に、県大会を勝ち抜いたチーム及び個人が千葉県の代表としてエントリーしました。アイデアバッグ部門では、千葉県1位と2位の生徒がともに1位と2位を獲得し、全国大会へ同時出場を果たしました。ロボコン部門では、本県のチームも健闘し、基礎部門でテクニカル賞（4位相当）、応用・発展部門で審査員特別賞（5位相当）に入賞をしましたが、惜しくも全国大会への切符を勝ち取ることができませんでした。また、木工部門とおべんとう部門は、関東大会がないため、千葉県1位の生徒が全国大会に出場することとなります。全国作品展を含めて、今年度も多くの生徒が全国大会で上位入賞するものと期待しています。

全面実施から2年目を迎えた新しい学習指導要領では、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他所と協働して課題を解決していくこと、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し、情報を再構築するなどして新しい価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることなどが求められています。各学校におかれましては、今回の改訂の趣旨を生かし、「技術の見方・考え方」や「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた実践的・体験的な学習活動の展開をすすめ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組をお願いいたします。

令和5年度には「千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会研究大会長生大会」が、令和6年度には「関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会千葉大会」が、ともに授業公開については参集方式での開催を予定しています。開催支部の先生方を中心に、本部会員の皆様の横の繋がりを深めながら、本部会発展のためにご尽力をお願いし、両大会ともすばらしい成果をあげることを期待いたします。

結びに、日頃からの本部会員皆様のご尽力感謝申し上げますとともに、今後の研究推進のために変わらぬご理解、ご協力をお願いし、はじめの言葉といたします。

2 千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会活動報告

(1) 事務局

1. 研究主題

生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成
～主体的・対話的で深い学びを通して～

2. 全国中学校技術・家庭科研究会・研究主題

明日の生活を工夫・創造し、実践する力を育てる
「技術・家庭科」の教育の推進

3. 活動報告

令和4年

- 6月 1日 (水) 第1回役員研修会 (東金市立日吉台小)
- 6月11日 (土) 全日中技術・家庭科研究会理事会 (東京都中央区銀座中※オンライン)
- 6月18日 (土) 関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究会理事会及び研究部研修会
(栃木県栃木市大平中※オンライン)
- 6月22日 (水) 千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会定期総会及び作品展
(東金市立日吉台小学校) ※研究大会船橋大会は書面開催
- 6月29日 (水) 第1回小学校部会役員研修会 (県総合教育センター)
- 7月12日 (火) 第2回役員研修会 (千葉市立更科中学校※オンライン)
- 8月 1日 (月) 第18回千葉県中学生創造ものづくり教育フェア準備及び研修会
(千葉市立更科中)
- 10月 3日 (月) 第3回役員研修会 (県総合教育センター)
- 10月 7日 (金) 第18回千葉県中学生創造ものづくり教育フェア打合せ
(県総合教育センター)
- 10月29日 (土) 第61回全国・関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会関東理事会
(※オンライン)
- 11月 1日 (火) 千葉県小学校家庭科教育研究大会 (船橋市立習志野台第二小)
- 11月11日 (金) 第18回千葉県中学生創造ものづくり教育フェア前日準備
- 11月12日 (土) 第18回千葉県中学生創造ものづくり教育フェア (白子中・轟町中)
- 11月17日 (木) 第61回全国・関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会栃木大会
全国理事会 (※オンライン)
- 11月18日 (金) 同分科会及び研究大会 (栃木県内各中学校)
9:00～12:00 全体会、ライブ配信
14:00～16:00 分科会、ライブ、オンデマンド配信
- 12月 3日 (土) 全国中学生創造ものづくり教育フェア関東甲信越東京大会
- 4日 (日) //

令和5年

- 1月28日 (土) 第22回全国中学生創造ものづくり教育フェア
- 29日 (日) (競技会本部会場：春日部市立豊野中学校)
(教育フェア会場：中央区立総合スポーツセンター)
- 2月 日 () 関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究会理事会 (群馬県)
- 2月 9日 (木) 第4回役員研修会 (東金市立日吉台小)
- 2月 日 () 第2回小学校部会役員研修会 (県総合教育センター)
- 2月18日 (土) 千葉県中学生木工工作作品展準備・審査・展示
- 19日 (日) ※千葉県木材振興協会主催 (千葉市科学館きぼーる)
- 3月26日 (日) 会計監査、役員選考会 (ポートプラザちば)

※令和4年9月 ～ 令和5年3月 各地区作品展開催

(2) 関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会栃木大会千葉県提案内容

生活や技術を工夫し創造する主体的な態度の育成

～学習内容，学習過程の工夫を通して～

千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会
館山市立館山中学校 教諭 白井 隆太

1 はじめに

(1) 主題設定の理由

現在，多くの情報が行き交う社会から，仮想空間と現実空間を高度に融合させ，社会課題の解決や経済の発展を目指す社会（Society 5.0）に変容しようとしている。変化の激しい社会において，知識の習得はもちろんのこと，様々な問題の解決に向けて多様な他者と協働し，最適な解決方法を探り出していく力や様々な知識や情報を活用・発揮しながら自分の考えを形成したり，新しいアイデアを創造したりする力が求められている。

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説技術・家庭編では，技術分野の目標を「技術の見方・考え方を働かせ，ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して，技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指す。」としている。各内容の知識及び技能の定着を図り，技術に関わる課題を見だし，解決する力を養い，よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な活動を通して，主体的な態度の育成が求められる。

千教研技術・家庭科部会では，研究主題のサブタイトルを「主体的・対話的で深い学びを通して」とし，学習の質を高める授業改善に取り組んでいる。

これらを踏まえ安房支会では，『思考し，表現する力』を高める実践モデルプログラム（千葉県教育委員会）を使い，「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」のサイクルを活用し，授業改善に取り組むことにした。「エネルギー変換の技術」において，技術を評価し，適切な選択と管理・運用の在り方や，新たな発想に基づく改良と応用について考え，主体的な態度の育成を目指している。

また，令和元年房総半島台風（台風15号）は，安房地区に甚大な被害をもたらした。停電や断水などのライフラインが絶たれる生活を余儀なくされた。この災害体験をもつ生徒たちに防災とエネルギーを学ばせることで課題を発見し，解決する態度を育んでいきたいと考え，本主題を設定した。

(2) 生徒の実態

本研究を実践するにあたり，エネルギー変換の技術に関する実態調査を行った。図1にアンケート調査の結果を示す。身の回りにある沢山の電気機器を利用しているが，目に見えない「電気」の作り方（発電）や送り方（送電）についてほとんど知らない状況である。『思考し，表現する力』を高める実践モデルプログラム」の「自分で取り組む」において，課題に対して様々な視点で解決策を考えるためには知識習得へ向けた手立てが必要であることがわかる。実生活や実体験と結びつけるため資料の内容を工夫したり，実験等の体験の機会を設けたりと指導法を改善していくことが知識の定着に繋がると考える。

また，自然災害時のエネルギー問題との関連を半数以上が「感じられない・どちらでもない」と回答しているため，日常生活にある問題と技術との関わりを考える機会が十分でないことがわかる。

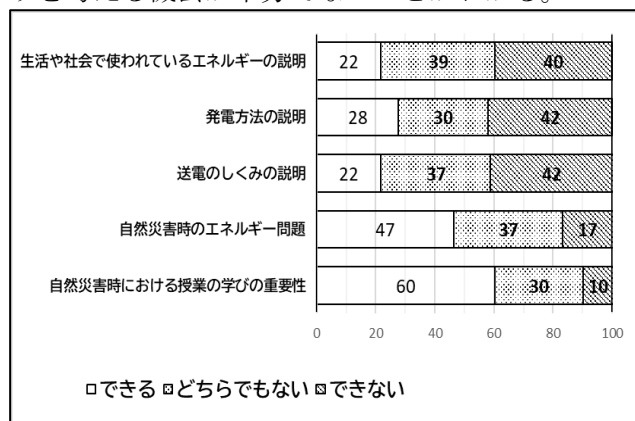


図1 エネルギー変換の技術に関するアンケート

2 研究仮説

エネルギー変換の技術の学習内容と学習過程を工夫すれば、生徒が災害時に起こりえる問題から課題を設定し、エネルギー変換の技術を活用しながら、主体的に課題を解決する力を身に付けられるであろう。

3 研究内容

(1) 全体構想

題材の学習を行うにあたり、図2のような学習の流れを考えた。始めに、「エネルギー変換の技術」の原理・法則や基礎的な技術の仕組みについて学び、知識や技術の見方・考え方を働かせられるように視点をおさえた。次に、エネルギー変換の技術を用いた実習を通して作品を製作し、どのように活用できるか問題解決的な学習を取り入れる。最後に、まとめとしてこれまでの学習を通して学んだ内容を活用し、よりよい生活や社会について考え、題材のまとめを行うようにした。

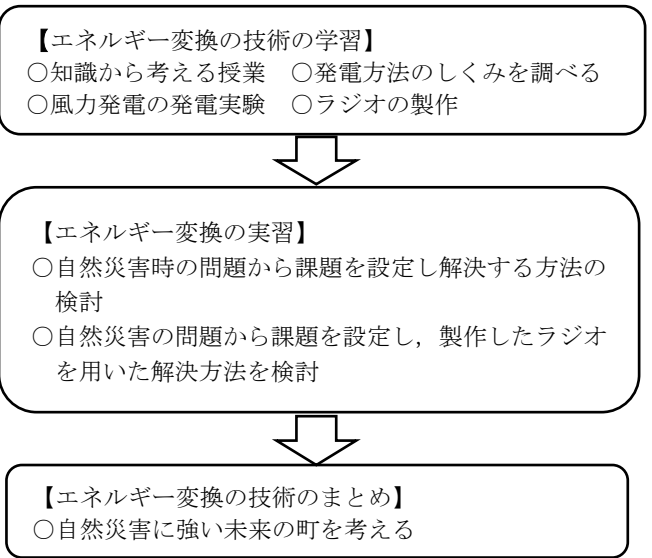


図2 題材の学習の流れ

(2) 指導計画の工夫

技術の見方・考え方を働かせ、エネルギー変換の技術が生活や社会をどのように変化させていくかを考えさせ、生徒にとって身近な「生活や町づくり」に視点をあて、問題解決的な学習が行える指導計画の工夫を行った。また、『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラムを活用し、「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」のサイクルを活用した指導計画を立てた。(表1)

表1 エネルギー変換の技術における指導計画(21時間)

時	学習内容と活動	評価規準・方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
見 い だ す ・ 自 分 で 取 り 組 む 広 げ 深 め る ま と め あ げ る	1 ○ エネルギー変換の技術が生活や社会に果たしている役割について考える。	知識・技能① ワークシート		主体的態度① 振り返りカード
	2 ○ 身の回りにおけるエネルギー変換の技術に関する工夫や仕組みを調べる。	知識・技能① ワークシート	思考・判断・表現① ワークシート	主体的態度① 振り返りカード
	3 ○ エネルギー資源の利用	知識・技能① ワークシート ペーパーテスト	思考・判断・表現① ワークシート	主体的態度① 振り返りカード
	4 ○ 電気の利用	知識・技能① ワークシート	思考・判断・表現① ワークシート	主体的態度① 振り返りカード
	5 ○ 発電のしくみ(調べ学習)	知識・技能① ワークシート	思考・判断・表現① ワークシート	主体的態度① 振り返りカード
	6 ○ 風力発電の発電実験	知識・技能① ペーパーテスト	思考・判断・表現① ワークシート	主体的態度① 振り返りカード
	7 ○ 運動の利用	知識・技能① ワークシート ペーパーテスト	思考・判断・表現① ワークシート	主体的態度① 振り返りカード
	8 ○ エネルギー変換の技術による問題解決	知識・技能② ワークシート	思考・判断・表現② ワークシート	主体的態度① 振り返りカード
	9 ○ 自然災害時に役立つ電気製品の製作(ラジオの製作)	知識・技能③ 観察・製作品	思考・判断・表現③④ 作業計画書 作業記録表	主体的態度② ワークシート
	10 ○ 製作品の活用による技術の評価			主体的態度② ワークシート
	11 ○ 自然災害時の問題を課題解決			主体的態度② ワークシート
	12 ○ 自然災害時の問題をラジオを用いて課題解決			主体的態度② ワークシート
	13 ○ これからのエネルギー変換の技術	知識・技能④ レポート	思考・判断・表現⑤ レポート	主体的態度④ レポート
	14 ○ エネルギー変換の技術を振り返る			
	15 ○ エネルギー変換の技術と私たちの未来の町の検討(自然災害から生活を守るエネルギー変換の技術)			

(3) 授業実践

① 技術に関する知識及び技能を習得する学習

ここでは、『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の「見いだす」「自分で取り組む」を意識した学習内容を実践した。

知識から考える授業

エネルギー変換の技術の知識を定着させるために、エネルギー変換の技術が生活や社会の中でどのように利用しているかを深く学べるように、学んだ知識を利用して考える資料を用意した。

発電方法のしくみを調べる(図3)

図3 電気の発電方法調べ学習のワークシート

生徒の実態として、電気エネルギーがどのように作られているか説明できる生徒が少なかった。そこで、発電方法を調べ、発表する学習を行った。

その際に、図3のようなワークシートを用いることで、発電方法を調べるだけでなく、発電のしくみによる違いを学べるように、技術の見方・考え方に視点を置いた項目も合わせて調べることにした。

調べたことを発表し、情報を共有することで、今まで知らなかった発電方法を見つけられた。

風力発電の発電実験 (図4)

発電方法を調べた後、風力発電のブレードを製作し、発電量を増やす方法を体験した。風力発電実験では、最大10Vの発電機に厚紙で製作したブレードを付け、サーキュレータで風を起し実験を行った。その際に、発電量を可視化できるように大型モニターに表示した。

生徒たちは、Web上に掲載されているブレードの形状を模倣し、製作していた。模倣し製作したブレードでは、発電量が上がらない生徒が多かった。そこで、生徒たちは、発電量の高い値を出したブレードの特徴を分析し、形状、角度、大きさや風を当てる向きなどのポイントを見だし、他の生徒と相談しながら試行錯誤していた。このことから、生徒はブレードの形状と角度の調整により発電量が変化することを発見した。このことから、発電を体験的に学ぶことで、より大きな電気エネルギーを作る難しさと楽しさを実感した。



図4 風力発電の発電実験

ラジオの製作

エネルギー変換の技術の製作題材として、「ラジオ」製作を行った。電氣的な部品の組み立ては、初めての生徒が多くいたので、電子部品の説明やはんだごての使い方など説明しながら製作を行った。製作中には、電子部品の役割を調べたり、作業方法等を作業班ごとに教えあったりして作業を行うようにした。このような学習を進めることで、学習内容をお互いに説明することで学習理解を深めた。

作業時から、班ごとに教えあう活動を行ったことで、完成後にはラジオに搭載されている機能を実際に生徒同士で説明しあう姿が見られた。

② 問題を見だし課題を設定し解決する学習

ここでは、『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の「広げ深める」を意識した学習内容を実践した。

自然災害の問題から課題を設定し解決方法の検討

今回の学習では、自然災害とエネルギー変換の技術を活用し、問題解決を行うために図5のワークシートを用いて学習をした。始めに、これまでの経験から自然災害時に発生する問題から課題を考えさせた。その後、その課題に対して、どのような解決方法があるかを自らの学びの中で見つける活動をした。この学習の中で、自分の意見のみにならないように、班の仲間から情報を得るよう助言した。

自然災害時の問題から課題を設定し、製作したラジオを用いて解決方法の検討 (図5)

自然災害時に発生する課題を解決する方法を考えた後に、今回製作したラジオによって課題を解決できるか検討する学習を行った。実際に製作したラジオによって、多くの課題を解決することができることに気づかせ、エネルギー変換の技術との関連を学習した。

1. 自然災害(台風・地震など)が発生した時に起こりえる問題(不便なこと、あったら便利なこと)などを考えてみよう。

① スマホが使えない。 ↓ <便利> - 情報を取りかたがたい。 <不便> - いろいろなことができることがない。	② スマホの充電ができない。 ↓ <便利> - 充電できる。 <不便> - 充電できない。	③ 電気がつかない。 ↓ <便利> - ライトをつけることができる。 <不便> - 電気がつかない。
--	--	---

2. 1であげた問題の中で、エネルギー変換の技術を使うと解決できるもの(課題)は何でしょうか。

問題	解決方法
① スマホの充電ができない。	→ エコエネルギーで充電する。
② スマホが使えない。	→ 電波をひろい、情報を得る。
③ 電気がつかない。	→ 発電してライトをつける。

3. ラジオを使うとできる機能は、何でしょうか。

<ul style="list-style-type: none"> ・情報が得られる。 ・電気ができる。 ・ライトが使える。 ・音楽が聞ける。(イヤホン) 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間や日付がわかる。
--	---

4. 自然災害(台風・地震など)が発生した時に、生活や社会の中で生じる問題についてラジオを使うことで解決できるものは何でしょうか。

問題	解決方法
① スマホの充電ができない。	→ 発電して充電する。
② スマホが使えない。	→ 電波をひろい、情報を得る。
③ 電気がつかない。	→ 発電してライトをつける。

図5 ラジオを活用した問題解決のワークシート

③ よりよい生活の実現に向けて技術を工夫し創造しようとする態度を育む学習

ここでは、『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』の「まとめあげる」を意識した学習内容を実践した。

自然災害に強い未来の町を考える (図6)

エネルギー変換の技術の学習をとおして、学習してきた内容をまとめあげるために、「自然災害に強い未来の町」を考えた。この学習では、「自然災害に強い」というテーマを生徒に与え、それぞれが問題から課題を発見し、これまでの学習で得た知識及び技能を活用し、自然災害に強い町を考えた。まとめた内容は、「①自然災害で起こりえる問題、②問題から発見した課題、③課題を解決する具体的な解決方法(事例)、④自然災害に強い町とは」の流れで、発表した。発表を考える際に、思考ツール、情報機器、中間の発表資料等を活用しながら生徒自身が、自分の発見した課題を解決するようにさせた。発表では、学習内容以外にもエネルギー変換の技術を活用した事例を紹介し、今後の発展を考えられていた。



図6 未来の町の発表

4 成果と課題

(1) 成果

エネルギー変換の技術を学習後に事後アンケート(図7)を実施し、事前アンケートと比較を行った。

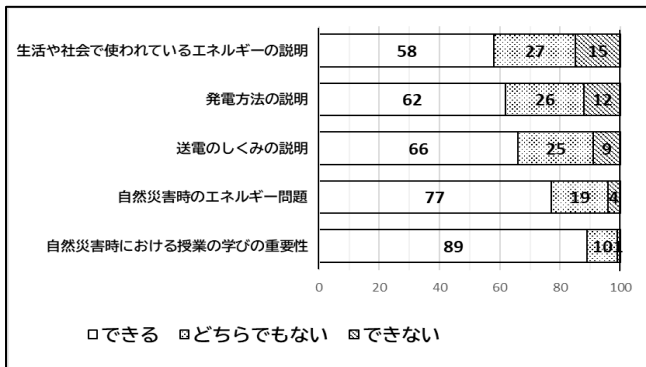


図7 エネルギー変換の技術の事後アンケート

① エネルギー変換の技術の知識面において、自ら調べ、体験したことで事前に比べ事後では、各項目を説明できる生徒を増やすことができた。

② 自然災害時のエネルギー問題について、考えることができる生徒を増やすことができた。実際に経験した自然災害で発生した問題について、エネルギー変換の技術により解決する体験をしたからだと考えられる。

③ 発表後の感想では、学びから解決しようと主体的に考えるとともに、自然災害時に授業の学びが重要であると思う生徒が増えた。以下のとおり主体的に課題を解決しようとしている記述が見られた。

<授業後の生徒の感想(一例)>

A: どのようなエネルギーを使っているかを知ることができた。また、未来に生活しやすい環境をつくるにはどうすればいいか自分なりに考えられた。

B: 災害が起きた時に学んだことでいろいろな解決方法があり、なるべく実現可能な理想を考えられた。また、電気の大切さや自分たちの生活がいかに便利かを知ることができた。

C: エネルギー変換を災害時などの非常時に、どのように利用すれば良いか学んだ。地球に優しい再生可能なエネルギーなどを使い、災害時の身の安全を確保しながらどうすればいいのか考えられた。

(2) 課題

① 今回は、コロナ対策としてグループ学習が制限され、個人での学習が中心となった。今後は、協働学習を増やすことで、内容をより深めることができるのではないかと考えられる。

② 今回の題材では、エネルギー変換の技術の学習内容を理解するために、他教科の知識及び技能を活用することができると考えられる。そのため、他教科の学習内容を把握し、適切に関連付けていくことで、より発展できると思われる。

③ 問題解決的な学習では、思考ツールの活用が有効であると考えられる。生徒が選択できるように種類を増やすことが必要であると思われる。

5 おわりに

今回の題材では、生徒が体験した「自然災害」をテーマにすることで、災害時に起こりえる問題について技術の学習により解決する体験をすることができた。学習過程を工夫し、探究的な学習方法を身につけ、主体的に学ぶ姿勢を育むことができた。

幼児の発達を理解するための学び方の工夫

～仲間と協働して幼児とのよりよい関わり方を考える活動を通して～

印西市立木刈中学校 教諭 伊東静枝

1 はじめに

近年の日本において少子化の進行が続き、令和2年度の合計特殊出生率は1.33となり、中学生が生活の中で幼児と触れ合う機会は減少してきている。

学習指導要領「A(2)幼児の生活と家族」では、「イ幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫すること」とあり、現代社会において家庭分野の授業の一環として生徒全員を幼児と関わらせる機会をもつことは重要なことと考えられる。また、幼稚園教育要領「第6の3 幼稚園間に加え、保育所、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校などとの間の連携や交流を図るものとする」とある。幼児にとっては地域に親しみをもつ契機となり、中学生にとっては幼児を理解するよい機会になると考えられる。さらに、幼児を取り巻く環境について知ること、アロマザリング*の必要性に気づき、延いては家族や周りの人と協力・協働する大切さを理解する機会にもなるだろう。

以上を踏まえ、これまでの授業実践において、幼児の発達や幼児との関わり方を理解するために、遊びを通して幼児について理解していく直接的な交流体験を大切に考えてきた。本研究開始当初は、3年間の指導計画を工夫し、交流体験の実施回数を増やすことで幼児への理解を深められるのではないかと、という仮説を立てて研究を進めていた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大のため、幼児及び生徒の安全を考慮した結果、幼児と直接触れ合う体験はしばらくできなかった。現在も実施が難しい状況にある学校が多い。代替措置として、幼児が楽しんで見られるような動画を制作し、幼児に届けることなどのリモート交流を計画に組み入れた。

間接的な交流となるが、幼児の発達段階を考え、幼児が喜ぶ姿を想像しながら動画を制作し、幼児が示す反応を目にすることで、幼児の発達に応じた関わり

り方を考えることの大切さに気付くのではないだろうかと考え、本主題を設定した。

アロマザリング*：母親の子育ての負担をシェアするという考え方

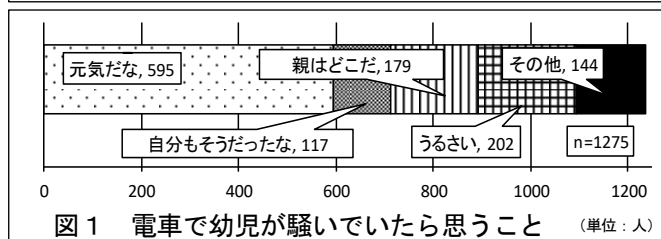
2 研究のねらい

(1) 生徒の実態

研究を進めるにあたり、千葉県印旛支部49校の2学年(1275名)を対象にアンケートを実施した。この結果から、普段の生活で幼児と接する機会のない生徒が約半数を占めていた。また、乳幼児を「元気だな」と感じる生徒がいる一方、「うるさい」と感じる生徒も一定数いることがわかった。このことから、幼児と触れ合う体験から幼児を理解し、関わり方を工夫する力の育成が必要であると考えた。

表1 幼児と接する機会がありますか (単位：人)

	楽しみ	どちらかというと楽しみ	どちらかというと楽しみではない	楽しみではない	その他
家庭のみ	62	53	19	8	1
学校の授業でも家庭でもある	23	13	5	4	2
学校の授業のみ	12	12	3	5	0
親戚など	24	22	18	6	4
経験がない	41	48	55	31	4



(2) 目指す資質・能力

幼児の発達と生活の特徴についての基礎的な理解とそれらに関わる技能 【知識及び技能】

これからの生活を展望して、幼児との関わりの中から課題を設定し、仲間と協働して考え、解決する力 【思考力、判断力、表現力等】

自分と幼児との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活を工夫し、創造しようとする実践的な態度 【学びに向かう力、人間性等】

3 研究仮説

- ・幼児との交流体験を工夫することで、幼児の発達をより深く理解することができるであろう。
- ・仲間と協働して活動できる学習指導計画にすることで、幼児とのよりよい関わり方について思考し、表現する力が高まるであろう。

4 研究内容及び研究活動

(1) 指導計画の工夫

① 指導計画における内容A(2)の配置

幼児の成長・発達を理解し、関わり方を工夫できるようにするために、2学年に分けて履修する計画とした。2年次においては、「私の成長をたどる」ことを通して、幼児の成長・発達についての理解を深めた。3年次においては、2年次の学習を生かし、幼児との関わり方を工夫できるようにした。

表2 3年間の指導計画における内容A(2)の配置

年	時間	主な学習内容
2 学 年	1	私の成長をたどる
	2・3	幼児の体の成長・心の成長
	4	発達にとってのおとなの役割・幼児の成長と地域
	5	遊びが必要なわけ
	6	遊びを支える環境
	3 学 年	【宿題】自分の成長を振り返る
1		幼児の世界を体験しよう
2		班で動画の企画をしよう(グループ討議)
3~7		幼児のための動画をつくろう(グループワーク)
8・9		できあがった動画を視聴し、よりよいものに改善しよう
10		動画を通じた交流を振り返り、これからの生活に生かそう

② 「協力・協働」を意識した題材の設定

2年次で幼児の成長過程を学習する中で、これまでの自分の成長に家族だけではなく、多くの人に関わってきたことに気付かせる。3年次では、幼児との交流に向けて課題を設定し、グループで計画を立てて制作し、動画を通じた交流について評価・改善する。これらの一連の学習を通して、視聴者である幼児のことを考え、喜ぶ姿を想像しながら制作することで、幼児への理解が深まるとともに、多くの人に関わって子供が育つことも実感し、「協力・協働」を意識づけるようにした。生徒が自分自身の成長に伴い、地域に守られ、育てられる存在から、地域の一員として支える側になっていることを自覚できるようにした。

(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導方法の工夫

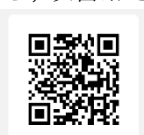
幼児との交流を通して幼児の発達を理解するため、動画制作の計画を立て、仲間との活動を振り返り、次の課題や活動内容を明確にする学習過程を実施した。

幼児との交流に向けて、企画から完成まで1枚の振り返り用紙に、自己評価、本時の活動(成果)と次時の課題や活動内容・改善点を記入することで、見通しを持てるようにし、計画的に活動した。



振り返り用紙

課 題 の 発 見	幼児の世界を体験しよう (1時間・個人)
	〈目標〉 幼児番組などの視聴を通して、幼児との関わり方を考えることができる。(ワークシート・クラウド型授業支援アプリ)
	〈学習内容・学習活動〉 ・動画制作を通して幼児と交流する目的を理解し、見通しをもつ。 ・幼児番組や生徒が制作した映像を視聴し、幼児番組の特徴に気付き、自分の課題を設定する。 ・幼児とよりよく関わるための内容や演出、表現方法について考える。
解 決 方 法 の 検 討 と 計 画	班で動画の企画をしよう (1時間・個人→4~6人グループ)
	〈目標〉 幼児の発達の特徴や遊びの意義など、今まで学んだことをもとに幼児のための動画の内容を考え、話し合うことができる。(ワークシート)
課 題 解 決 に 向	〈学習内容・学習活動〉 ・幼稚園の先生の助言や前時の幼児番組の分析を元に動画の内容を個人で考える。 ・個々で考えた動画の企画を持ち寄り、対象年齢に応じた内容や表現についてグループで意見交換をし、一人一人が作業に関われるように役割分担をする。
	幼児のための動画をつくろう (5時間・グループ)
	〈目標〉 動画を通して幼児とどのように関わるかを考え、計画に基づいて撮影などを進めることができる。(クラウド型授業支援アプリ、動画編集アプリ)

けた実践活動①	<ul style="list-style-type: none"> 動画の撮影や編集を振り返り、実践を評価し、次時の目標や活動内容を決めることができる。(振り返り用紙)
	<p>〈学習活動・学習内容〉</p> <p>動画の撮影や編集を下の学習プログラムで行う。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>動画をみる幼児のことを意識して、話し方や表情、演出などを工夫し、タブレットで動画を撮影・編集する。</p>
課題解決に向けた実践活動②	<p>できあがった動画を視聴し、よりよいものに改善しよう。(2時間・グループ)</p> <p>〈目標〉できあがった動画をクラスで見て、気がついたことを話し合い、改善することができる。(ワークシート、クラウド型授業支援アプリ)</p> <p>〈学習内容・学習活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 動画をクラスで視聴し、良かった点と改善点について、意見交換をする。 友だちの意見を参考にしながら、改善点を見つけ、話し合う。 話し合いで出た意見をもとに、動画を再編集して完成させる。 <div style="text-align: right;">  <p>動画作品</p> </div>
	<p>○代表生徒が完成した動画 (DVD) をもって幼稚園を訪問する。</p> <p>○幼稚園では、幼児と先生方に動画を見てもらい、意見やアドバイスを書いてもらう。また、視聴する様子を撮影してもらう。</p>
実践活動の評価・改善	<p>動画を通じた交流を振り返り、これからの生活に生かそう (1時間・グループ→個人)</p> <p>〈目標〉動画を通じた交流を振り返り、今までの活動の評価・改善ができる。</p> <p>自分自身がこれから幼児とどのように関わっていくか、考えることができる。(ワークシート)</p>

<p>〈学習内容・学習活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 動画を視聴する幼児の写真や映像を見て、幼稚園の先生の講評を読み、幼児の発達や個人差について気がついたことを共有する。(クラウド型授業支援アプリ) これからの生活で、幼児と触れ合う時に生かしたいことをまとめる。
--

(3) 地域との連携

① コロナ前 (～令和元年)

平成 28 年度から、地域の幼稚園に幼児との触れ合い体験について趣旨を理解いただき、幼稚園を訪問する方法で交流を行ってきた。3 年次の 6 月に、今まで学習してきた内容を生かし実践する機会として、学年を 10 人程度の 9 つのグループに分け、年少から年長の 9 つの学級で幼児と触れ合う活動をしてきた。

② コロナ禍 (令和 2・3 年度)

令和 2、3 年度は新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた教育活動をする事になり、直接幼児と触れ合う活動はできなかった。そこで、幼児のために動画を制作し交流を続けていきたいという意向を伝えたところ、趣旨に賛同していただくことができた。生徒が制作した動画は DVD にまとめ、中学生から幼児に宛てた手紙とともに代表生徒が幼稚園に届けた。動画の講評用紙には、視聴した際の幼児の反応や幼児と関わる専門家としての目線で、幼稚園の先生方が意見を書いてくださり、生徒にとって課題を見つけるヒントになった。また次年度以降の活動に活用することもできた。さらに交流後も、幼稚園からは園児が書いたお礼の手紙や手描きのポスターが届き、廊下に掲示したことで幼児への理解を深めるのに役立った。また、卒業式のお祝いメッセージの交流など、授業以外の交流も行っている。

<p>【幼稚園の先生の動画の講評】</p> <ul style="list-style-type: none"> 色々な年齢の子がいるので、簡単なもの、少し難しいものがあったです。 劇の動画は、2 歳児には難しかったようです。ダンスは喜んで踊っていました。 「まちがいさがし」「あとだしジャンケン」は考えないとできないので、年長さんにぴったりよく反応していました。

③ 本年度 (令和 4 年度)

本年度は、感染状況が落ち着いた 6 月に、中学生が

幼稚園を訪問する方法で幼児との触れ合い体験を再開した。年度当初は、触れ合い体験を実施できるかの判断が難しかったため、幼児のための動画づくりと触れ合い体験の準備を並行して進めた。

5 成果と課題

(1) 成果

① 指導計画

2年次に、幼児の成長・発達について基礎的・基本的な内容を学習したことで、3年次では幼児とのよりよい関わり方を考え、工夫する時間を十分に確保し、計画的に活動を進めることができた。

② 協力・協働

動画制作と触れ合い体験は、グループで活動したことで、仲間と協働してよりよい関わり方について思考することができた。特に、コロナ禍では、ICTを活用することにより、「協働」の意識が高まった。

③ 主体的・対話的で深い学び

ア 主体的な学び

動画制作では、動画を見る幼児のことを常に意識しながら活動することで、幼児に対しての理解が深まった。幼児のための動画制作の活動を通して、新たな課題を見つけ次の学びに繋げることができた。また、触れ合い体験では、交流する幼児に合わせて、積極的に話しかけたり一緒に遊んだりすることで、幼児との関わり方について思考力や表現力が高まった。

イ 対話的な学び

幼児のための動画制作の学習では、4～6名のグループで活動したことで、活発な意見交換や役割分担をし、自らの考えを明確にしたり、幼児に対する理解を深めたりすることができた。

ウ 深い学び

【R2, 3年度学習後の生徒の振り返り記述】

- ゆっくり話すと理解してもらえることがわかった。
- 幼児は1歳違うと、反応や感じ方に大きな差があることがわかった。
- 幼児には文字はまだ難しいとわかった。

令和2, 3年度に実施した動画を通じた交流では、作品について本校の教職員に親としての視点で助言をもらったり、クラス内で意見交換をしたりして検討を重ね、幼稚園の先生方からの講評をフィードバックすることで、考えを広げることができた。



今年度は、触れ合い体験後に、幼児に対するイメージがより具体的に変わった生徒が多く、プラスの表現も増えた。また、動画を視聴する幼児と交流したことで、対象がより明確になった。幼稚園での体験から活発な意見交換が行われ、動画づくりに生かす様子が見られた。

学習後に行ったアンケートでは、何らかの形で幼児と交流した生徒の方が「声をかける」割合が高くなる結果となり、実体験を伴った活動は幼児理解の大きな役割を果たしていることを実感した。

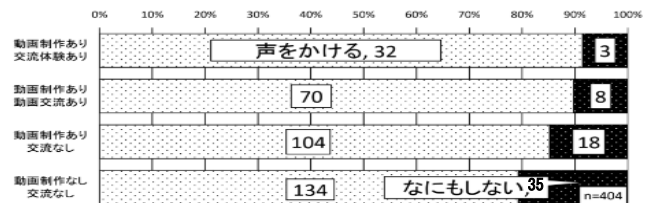


図2 迷子の子を見かけたらどうしますか (学習後)

④ 地域との連携

訪問できない時期であっても、地域の幼稚園等と連携し、制作した動画を見た幼児の様子や先生方からの助言をいただく等、形を工夫すれば幼児との交流を継続することができることを実感した。

今年度は触れ合い体験を実施することができたので、代表生徒が事前訪問し、打ち合わせを行い、グループで情報共有する時間をとることで、より主体的に活動に取り組むことができた。

(2) 課題

今後の課題としては、幼児の発達について学習した知識及び技能を家庭や地域で生かす場面を設け、生徒に実践力を身につけさせるための工夫である。また、小学校や高等学校でも幼児をはじめとした異世代との交流が位置づけられていることから、学習の系統性を図りより深い学びにつなげていくことが必要である。

6 おわりに

幼児の発達を理解するための学び方の工夫として、タブレット端末を活用した幼児のための動画制作は、幼児を身近に感じ、発達について理解を深めることができた。それ以上に、触れ合い体験も行った生徒は、体験からより多くのことを学び、幼児についてのイメージもより具体的に表現できるようになった。

これからは、限られた時間の中で、ICTの活用と実体験を伴う学習を「主体的・対話的で深い学び」にどうつなげていくのか、さらに研究を進めていきたい。

3 各部活動報告

(1) 研究部

1. 活動内容

- ・千葉県教育研究会技術・家庭科研究部会における研究推進
- ・各支部における研究協力及び研究支援
- ・各支部における研究成果を集約した「研究のまとめ」の発行

2. 活動日程

令和4年

- 6月 1日(水) 第1回役員研修会(日吉台小)・各支部へ今年度の研究概要アンケートのお願い
研究部会議1(日吉台小)・関ブロ千葉大会全体研究の内容検討
- 6月18日(土) 関東中学校技術・家庭科研究会 理事会及び研究部研修会参加
- 6月22日(水) 県定期総会オンライン・県作品審査会(日吉台小)
研究部会議2(日吉台小)
- 7月 4日(月) 研究部会議3(オンライン)・関ブロ千葉大会全体研究の内容検討
- 7月12日(火) 研究部会議4(更科中)・関ブロ千葉大会全体研究の内容検討
第2回役員研修会(オンライン)
- 8月 1日(月) 研究部会議5(更科中)・関ブロ千葉大会全体研究の内容検討
- 9月14日(金) 研究部会議6(オンライン)・関ブロ千葉大会全体研究の内容検討
- 10月 3日(月) 研究部会議7(県総セ)・関ブロ千葉大会全体研究の内容検討
・第1回「研究のまとめ」編集会議
第3回役員研修会・関ブロ千葉大会全体研究について
・各支部への「研究のまとめ」原稿依頼
- 11月18日(金) 関ブロ栃木大会オンライン参加
- 11月22日(火) 研究部会議8(オンライン)・関ブロ千葉大会全体研究の内容検討
・第2回「研究のまとめ」編集会議

令和5年

- 1月23日(金) 研究部会議9(オンライン)・関ブロ千葉大会全体研究の内容検討
・第3回「研究のまとめ」編集会議
- 2月 9日(木) 研究部会議10・関ブロ千葉大会全体研究の内容検討
第4回役員研修会・関ブロ千葉大会全体研究について

3. 取り組みについて

- ①令和6年度関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会千葉大会に向けた基礎研究
- ・各支部の今年度の研究概要について調査し取りまとめた結果を示した。
 - ・今後の大まかな計画について検討し、提案した。
 - ・昨年度決定した研究テーマをもとに、全体研究について内容を検討した。(年10回)
- ②記録として例年作成している「研究のまとめ」を今年度も作成できた。

4. 課題

- ・令和6年度の関ブロ千葉大会に向け、計画的に全体研究の内容の検討を進める。また、各支部と連携した研究活動を進めていく。
- ・令和5年度の関ブロ群馬大会での全体研究の提案発表に向け、内容の検討を進める。

(3) 課題

令和3年度完全実施の学習指導要領に適合した題材例が中心となるようなコンテンツの修正が数年来の課題である。研修会などを通じて、内容の再確認をお願いしているが、支部から発信されている情報の修正（旧指導要領下の題材例が数多く残るなど）がなかなか進まないのが現状である。

また、各支部ページの更新を年1回以上お願いしているが、残念ながらWebページ更新データを送付いただけなかった支部が多くあった。技術的にWebページ更新が難しい支部等があれば、個別に対応可能である。

各支部web ページ用データの送り方（随時登録・更新）

○gikachiba.jyoho@gmail.com（千教研情報部専用アドレス）

4. 今年度を振り返って

これまで同様、県総会、ものづくりフェアなどについて、開催の案内から開催の報告まで、事務局や中学校部などと連携して、積極的に確実な情報発信に努めることができた。発信方法や内容について、情報部側から提案することもあり、部会内各部の連携が図れている良い例ではないかと自負している。

負担軽減のため各支部のweb担当者の集約にGoogle Formsを利用したものの、十分な周知を行うことが難しく、目的を達成できたとはいえ難かった。また、新型コロナウイルス感染症対策として、夏に予定していたオンデマンドでの研修が準備期間が十分に確保できず実施できなかったことが大きな反省点である。今度、事務局とも連携して今年度実現できなかった事項について工夫をしていきたい。

オンラインで実施されたものづくり教育フェアでは技術的な支援を行うことができた。

今後もより一層（GI☆KA CHIBA）の充実を図るために、各支部Webページ担当者や支部理事との連絡を密にして、製作を進めていきたい。

【令和4年度情報部】

部長：濱田勝久	所属：千葉市立幸町第一中学校
部員：藤田伸平	所属：香取市立栗源中学校
部員：君塚久美	所属：千葉市立新宿小学校

(3) 中学校部

1. 千葉県中学校技術・家庭科作品審査会〔6月22日（金） 東金市立日吉台小学校〕

「令和4年度千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会研究大会並びに定期総会」の開催に合わせて、東金市立日吉台小学校にて開催した。各分野の優秀な作品に対して、特別賞（千葉県教育委員会教育長賞、千葉県教育研究会技術・家庭科振興会長賞）を与えるとともに、生徒作品を全国フェアへ出品した。

令和4年度 千葉県技術・家庭科作品審査会 入賞者一覧

※学年は今年度

No.	分野	特別賞	出品先	支部	学校名	生徒氏名	作品名	学年
1	技術	県教育長賞	全国	君津	君津市立周東中学校	矢島 恵介	ドッグテーブル	2年
2	技術	県振興会長賞	全国	船橋	船橋市立八木が谷中学校	福田 優人	椅子	2年
3	技術	県振興会長賞	全国	千葉	千葉市立磯辺中学校	高橋 六花	Toilet roll stocker	2年
4	技術	県振興会長賞	／	千葉	千葉市立稲毛中学校	青木 智洋	文 鎮	卒業
5	技術	県振興会長賞	／	八千代	八千代市立萱田中学校	吉田 啓希	スライド本棚	2年
6	技術	県振興会長賞	／	市原	市原市立有秋中学校	馬場 心	LEDソーラーセンサースタンド	3年
7	技術	県振興会長賞	／	安房	鴨川市立鴨川中学校	大塚 温仁	教科書置き&けいたいタブレット充電台	2年
8	技術	県振興会長賞	／	東葛飾	柏市立柏第二中学校	植田 靖菜	マンガピタリ本棚	2年
9	技術	県振興会長賞	／	長生	白子町立白子中学校	緑川 和花子	本 棚	2年
10	技術	県振興会長賞	／	印旛	成田市立下総みどり学園	鈴木 琉斐	本 棚	9年
1	家庭	県教育長賞	全国	千葉	千葉市立稲毛中学校	泉 沙羅	インテリアに溶け込む防災グッズ	2年
2	家庭	県振興会長賞	全国	千葉	千葉市立泉谷中学校	佐藤 梨央	SDGsを意識したサロベリユックの製作	2年
3	家庭	県振興会長賞	全国	長生	茂原市立富士見中学校	徳永 里美	みんなでアイスクリーム屋さん	3年
4	家庭	県振興会長賞	／	夷隅	御宿町立御宿中学校	吉野 仁深	コンビニエコバッグ	2年
5	家庭	県振興会長賞	／	船橋	船橋市立船橋中学校	齋藤 秀	トートバッグ	2年
6	家庭	県振興会長賞	／	印旛	成田市立公津の杜中学校	榎本 珠葵	ブックカバー	2年
7	家庭	県振興会長賞	／	習志野	習志野市立第四中学校	伊藤 かしわ	ミニトートバッグ	2年
8	家庭	県振興会長賞	／	東総	匝瑳市立八日市場第二中学校	佐藤 美桜	猫用ベッド	2年
9	家庭	県振興会長賞	／	夷隅	御宿町立御宿中学校	杉友 空海心写	海のドレス	3年

2. 第22回全国中学生創造ものづくり教育フェア生徒作品コンクール

・Web上での事前審査（写真・レポート審査）〔12月実施〕

・作品最終審査（会場：東京都墨田区立墨田中学校）〔1月21日実施〕

<p>【I部門出品】 ※ Web 審査通過 君津市立周東中学校 矢島 恵介</p> 	<p>【I部門出品】 ※ Web 審査通過 船橋市立八木が谷中学校 福田 優人</p> 	<p>【I部門出品】 ※ Web 審査通過 千葉市立磯辺中学校 高橋 六花</p> 
<p>【II部門出品】 ※ Web 審査通過 千葉市立稲毛中学校 泉 沙羅</p> 	<p>【II部門出品】 ※ Web 審査通過 千葉市立泉谷中学校 佐藤 梨央</p> 	<p>【I部門出品】 ※ Web 審査通過 茂原市立富士見中学校 徳永 里美</p> 

3. 第18回千葉県中学校創造ものづくり教育フェア〔11月12日(土)〕

【審査会場】 技術分野：白子町立白子中学校 ・ 家庭分野：千葉市立轟町中学校

(1) 「木工チャレンジコンテスト」

木材加工の基礎的・基本的な技能を競うため、一枚板で作る机の上を整理・整頓できるものを製作した。第1位に選出された1名が全国大会の書類審査(予選)に出場した。

(2) 「アイデアロボットコンテスト」

基礎部門「Ace in the hole 2」、計測・制御部門「ドキドキ!ロボット収穫祭」、応用・発展部門「支援物資を運搬せよ!」の3部門で、ロボットの性能と操作技術を競い合った。全ての参加チームの中からアイデアに優れた1チームが『ロボコン大賞』に選出された。また、各部門からは、優勝・準優勝チームと審査員特別賞に選出された1チームが関東フェアに出場した。

(3) 「豊かな生活を創るアイデアバッグ」コンクール

縫製の基礎的・基本的な技能を競うため、『バッグ』製作した。第1位と第2位に選出された2名が関東フェアに出場した。

(4) 「あなたのためのおべんとう」コンクール

栄養バランスや食べてもらう相手のことを考えた献立をレポートにまとめ、調理動画を製作した。第1位に選出された1名が全国大会の書類審査(予選)に出場した。

【木工チャレンジコンテスト部門】 結果一覧

順位	支部名	学校名	生徒名	備考
第1位	長生	茂原市立本納中学校	小高 龍之介	全国大会書類審査出品
第2位	安房	南房総市立富浦中学校	鈴木 柚子	/
第3位	君津	君津市立周西南中学校	清田 征矢	/

【ロボットコンテスト部門】 結果一覧

ロボコン大賞：はやぶさ (山武市立山武中学校)

「基礎部門」

順位	支部名	学校名	チーム名	関東甲信越大会結果
第1位	東葛飾	松戸市立小金中学校	大城製作所 with 大坂	予選リーグ敗退
第2位	東葛飾	野田市立岩名中学校	Cたけ	第5位 審査員特別賞
特別賞	東葛飾	流山市立東深井中学校	T. Yoshisaur Munchakoopas	予選リーグ敗退

「計測・制御部門」

順位	支部名	学校名	チーム名	関東甲信越大会結果
第1位	東葛飾	松戸市立小金中学校	Maritozzo	予選リーグ敗退
第2位	習志野	習志野市立第一中学校	NAT	予選リーグ敗退
特別賞	東葛飾	松戸市立小金中学校	大福LAB	予選リーグ敗退

「応用・発展部門」

順位	支部名	学校名	チーム名	関東甲信越大会結果
第1位	山武	山武市立山武中学校	はやぶさ(山武中)	第4位 テクニカル賞
第2位	東葛飾	松戸市立小金中学校	Pedmi	予選リーグ敗退
特別賞	習志野	習志野市立第一中学校	疾風 ~Be Strong~	予選リーグ敗退

【アイデアバッグコンクール部門】 結果一覧

順位	支部名	学校名	生徒名	関東甲信越大会結果
第1位	夷隅	御宿町立御宿中学校	石井 美優	第2位(全国大会出場)
第2位	東葛飾	松戸市立第一中学校	星川 志織	第1位(全国大会出場)
第3位	千葉	千葉市立朝日ヶ丘中学校	岸本 麻由	/

【あなたのためのおべんとうコンクール部門】 結果一覧

順位	支部名	学校名	生徒名	備考
第1位	千葉	千葉市立泉谷中学校	山本 咲希	全国大会書類審査通過(全国大会出場)
第2位	千葉	千葉市立草野中学校	渡辺 桃	/
第3位	千葉	千葉市立葛城中学校	並木 明日香	/

4. 第22回全国中学校創造ものづくり教育フェア〔令和5年1月28日(土)〕

【入賞者一覧】

- ・文部科学大臣賞(全国1位) 石田 一花(千葉市立葛城中学校) 〈部門：おべんとう〉
- ・特許庁長官賞(全国3位) 多田帆乃果(千葉市立小中台中学校) 〈部門：生徒作品〉
- ・(公財)つくば科学万博記念財団 理事長賞 須藤 聡子(千葉市立葛城中学校) 〈部門：おべんとう〉
- ・全国家庭科教育協会長賞 北村 優依(君津市立君津中学校) 〈部門：生徒作品〉

※ 全国大会の結果は、昨年度のものに記載

(4) 小学校部 (支部数 12 会員数 116)

千葉県小学校家庭科教育研究会 活動概要

今年度は感染対策を行いながら、久しぶりに対面での役員総会・研修会を行った。

また、研究大会の準備のために事務局会議等を重ねて行い、11月1日(火)には、第38回千葉県小学校家庭科教育研究大会船橋大会を船橋市立習志野台第二小学校に参集して実施した。

1. 研究の概要

千葉県小学校家庭科教育研究会研究主題

家庭生活を見つめ、豊かな家庭生活を創り出す家庭科教育
—学び合い、関わり合いながら生活をよりよくする児童の育成を目指して—

めざす児童の姿

- 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能を身に付けている子
- 日常生活の中から課題を設定し、課題を解決する力を身に付けている子
- 家庭や地域との関わりを考え、生活をよりよくしようと工夫する子

研究の視点

視点1

指導計画の工夫

- (1) 2年間を見通し、中学校との系統性をふまえた指導計画
- (2) 他学年及び他教科等の内容との関連
- (3) 家庭や地域との関わりを大切にしたい題材構成

視点2

関わり合いながら学びを深める学習指導の工夫

- (1) 学習過程を工夫した問題解決的な学習
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり
- (3) 一人一台端末の効果的な活用

視点3

自己の成長を実感できる評価の工夫

- (1) 資質・能力を高めるための評価計画の作成
- (2) 自分の成長に気づく評価の工夫(自己評価・相互評価・保護者の評価等)

2. 本年度の活動

5月9日(月) 県大会会場校との打ち合わせ(千葉市立若松小学校)

5月13日(金) 全小家研 理事総会・関ブロ第1回理事会

(国立オリンピック記念青少年総合センター)

5月17日(火) 26日(木) 事務局会議 総会準備(千葉市立若松小学校)

5月27日(金) 県大会会場校挨拶(船橋市立習志野台第二小学校)

- 6月21日（火）事務局会議 総会準備（千葉市立若松小学校）
- 6月29日（水）総務会・第1回役員総会・研修会（千葉県総合教育センター）
県大会第一次案内配付
- 7月25日（月）船橋市教育長挨拶
- 8月5日（金）県大会打ち合わせ（船橋市立習志野台第二小学校）
- 9月8日（木）県大会第二次案内配付
- 11月1日（火）第38回千葉県小学校家庭科教育研究大会船橋大会開催
（船橋市立習志野台第二小学校）
- 11月11日（金）第59回全国小学校家庭科教育研究大会京都大会開催
ハイブリッド型運営（福知山市立惇明小学校他）
- 11月16日（水）第39回小学校家庭科教育研究大会打ち合わせ
- 11月25日（金）第38回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会群馬大会
オンライン開催（富岡市立富岡小学校）
- 12月 全小家研アンケート調査実施
- 1月 事務局会議 第2回研修会準備（千葉市立若松小学校）予定
- 2月 第2回役員会・研修会（千葉県総合教育センター）予定
- 3月 事務局会議 次年度計画（千葉市立若松小学校）予定

3. 第38回千葉県小学校家庭科教育研究大会船橋大会について

- (1) 期日 令和4年11月1日（火）
- (2) 会場 船橋市立習志野台第二小学校
- (3) 主催 千葉県小学校家庭科教育研究会 千葉県教育研究会
千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会
- (4) 共催 船橋市教育委員会
- (5) 後援 千葉県教育委員会 船橋市教育委員会
千葉県小学校長会 船橋小学校長会
- (6) 大会主題 豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育
研究主題 家庭生活を見つめ、豊かな家庭生活を創り出す家庭科教育
一学び合い、関わり合いながら生活をよりよくする児童の育成を目指して一
- (7) 日程 13:00 受付
13:30 授業公開
14:15 移動 休憩
14:35 全体会 講演会
- (8) 公開授業 5年1組・2組「食べて元気に」
6年1組・2組「クリーン大作戦」
- (9) 講演 講師 聖徳大学人間栄養学部人間栄養学科講師 佐藤 雅子様
演題 「家庭科における深い学び」

4. 成果と課題

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、2年間開催することができなかつた対面での役員総会・研修会を開催することができた。また、船橋市立習志野台第二小学校での県大会も船橋市教育委員会をはじめ関係諸機関や当該校、船橋支部の協力のもと参集型で開催できたことは何よりの成果である。
- 支部によっては会員数が年々減少し、小学校家庭科教育の研究推進や県大会の開催に懸念が生じてきている。

4 各支部活動報告

(1) 千葉支部

(学校数 55校 会員数 技術科46名 家庭科41名 小学校家庭科25名)

【技術分野】

1. 千葉支部研究主題

よりよい生活や持続可能な社会の構築を目指して、
生活を工夫し創造する実践的な態度を育成する技術・家庭科教育の在り方
～見方・考え方を働かせる学習を通して～

2. 主題設定の理由

千葉支部（技術分野）では、本教科の目標にある「よりよい生活」を実現するために、社会で求められている「持続可能な社会」の構築について学校教育ができることを視点に学習内容の在り方について研究を進めたいと考え、主題を設定した。

学習への関心・意欲の向上や学習した内容を生活に活かすことができるよう、生徒にとって身近であると感じられる題材を設定し、生活に取り入れられるような授業展開の工夫をした。生徒が必要な知識、技能を身に付けつつ、「技術の活用」が進められるような技術・家庭科教育の在り方の研究を目指した。

3. 研究の概要

(1) 研究仮説

【仮説1】3年間を見通し、環境との関連が図れる題材を系統的に配列すれば、技術の見方・考え方を働かせて課題を解決する力の基礎となる知識・技能の定着が図れるだろう。

【仮説2】実践的・体験的な学習活動の中で、意図的に環境に関連させた学習の場面を増やせば、現代的な課題に対する「技術的な課題解決力」が身に付くであろう。

【仮説3】生徒を惹きつける題材や学習過程の工夫を図れば、学習に対する成就感・達成感が高まり、実践的な態度が身に付くであろう。

(2) 仮説の検証

① 仮説1について：内容Dにおいて、マイクロビット単数でのプログラミング学習から複数のマイクロビットをネットワークでつないでプログラミング学習に発展させることで、「計測と制御」で学習した知識・技能を「ネットワークを利用した双方向性のあるプログラミング」の学習で活用できると考えた。

② 仮説2について：内容Dにおいて、マイクロビットを活用し、日常生活で使用している自動化されている製品の技術を再現することで、問題点の発見から課題解決までの学習を実践的・体験的に学習できると考え、授業を展開した。

③ 仮説3について：内容Bにおいて、「ミニトマトの栽培」で土の配合や生育状況から問題点を見付け、解決するような生徒が主体的に活動する授業を展開することで、実践的な態度が身に付くと考えた。

4. 成果と課題

(1) マイクロビットを活用し、D(2)とD(3)題材配列の順序を変えることで、「計測と制御」で学習したプログラミングの知識・技能を「ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミング」の学習で応用・発展させることができた。

(2) マイクロビットで技術を再現する授業を展開し、身近な製品の技術のしくみの理解から問題点の発見、課題の設定、課題の解決方法の具体化へと学習を発展させることができた。

(3) 生徒が主体的に活動できるように授業展開の工夫をしたことで、生徒の関心・意欲が高まり、より多くのミニトマトを収穫しようとする態度が見られた。

【家庭分野】

1. 千葉支部研究主題

生涯にわたって自立し共に生きる生活に向けて、食生活を工夫する生徒の育成

2. 主題設定の理由

技術・家庭科では、社会の変化に主体的に対応する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する力の育成を目指している。そのためには、生徒自身が自己の現在や将来を考え、生活を追求していく力を培うことが必要である。現在、社会の急激な変化や科学技術の著しい進歩に伴って、人々のライフスタイルも多様化している。このような状況の中で、多様な意見を取り入れることで、よりよい生活を目指していこうとする意識を高めていきたい。今年度は食生活に焦点を当て、食への興味を高めさせ、調理実習やディベート学習を通して考えて食べる力を育てていくことを目標として研究を進めた。

3. 研究の概要

(1) 研究の視点

研究テーマを解明するために、研究の視点を立てた。

- ① 生活を工夫し、創造する資質・能力を育むための学習の工夫について
- ② 新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえた調理実習の実施方法について

(2) 研究の計画

- | | | |
|-----|-----------------|--|
| 4月 | 年間計画 | (幸町第二中学校) |
| 5月 | 指導案検討 | (朝日ヶ丘中学校) |
| 6月 | 授業実践 | B 衣食住の生活「あなたは生鮮食品？加工食品？」
朝日ヶ丘中学校 教諭 榎本 優希 |
| 8月 | 研修会 | 「学習指導要領の評価の在り方」
前 文部科学省教科調査官 筒井 恭子先生 |
| 9月 | 指導案検討 | (生浜中学校) |
| 10月 | 授業実践 | B 衣食住の生活「日常食の調理 豚肉のしょうが焼き」
生浜中学校 教諭 渡邊 友 |
| 11月 | 授業実践 | B 衣食住の生活「こんだてを工夫して」
有吉小学校 教諭 渡邊 春香 |
| 1月 | 今年度のまとめ・次年度への展望 | |

4. 成果(○)と課題(●)

- ディベート学習に関する授業研究では、学んだことや調べたことを深め、相手の意見や質問を受けてさらに自分の意見を深めるなど、主体的・対話的な学びを通して、課題解決能力を養う取組について得られた効果や改善点を検討することができた。
- 調理実習に関する授業研究では、新型コロナウイルス感染防止対策のため、実施方法の検討や改善が求められている調理実習について、検討を行うことができた。
- ディベート学習に関する授業研究では、指導者による事前の準備や、日頃から思考力や表現力を養う指導を重ねておく必要がある。一題材の指導計画内に収めるのではなく、長期的な指導計画を検討していく必要がある。
- 調理実習に関しては、一人調理やペア調理で実施できる内容についてはまだ制限も多いため、現在の状況に合わせた調理実習の手法やあり方について部会全体で検討研究していく必要がある。

(2) 市原支部 (学校数 22校 会員数 技術科 8名 家庭科 16名)

1. 市原支部研究主題

「生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成」
～主体的・対話的で深い学びを通して～

2. 主題設定の理由

急速な社会の変化に対応するためには、自ら課題を見つけ解決する力である「生きる力」を身につける必要がある。本支部では、基礎的・基本的な知識や技能の習得を基本とし、自分で判断して取り組む力を育むために、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「主体的・対話的で深い学び」という視点のもと、実践に活かすことにつながる学習指導の在り方について研究を進めている。

家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化に加えて、グローバル化や少子高齢化の進展、持続可能な社会の構築等、生きていく上では、社会の急激な変化に主体的に対応する力が必要である。こうした資質・能力を育成することにつながるため、本主題を設定した。

3. 研究の概要

(1) 経過

技術分野においては、小中連携の観点から、中学校技術科部会として小学校でのプログラミング教育のサポートをなどの活動と共に、中学校の学習指導要領に沿った題材や指導方法について情報交換を行っている。

家庭分野においては、持続可能な社会、未来の社会の創り手となる子ども達の育成という点からも、教科の存在意義を重要視している。基礎・基本の定着を基に、SDGsへの取り組みなども含め、現代的な諸課題を適切に解決できる能力が育成できるように、指導内容・方法の改善を図っている。

(2) 本年度の研究、活動内容

月	日	曜日	おもな活動内容
4	28	木	定例集会 (国分寺台西中学校) ・研究計画、組織づくり
6	14	火	定例集会 (八幡東中学校) ・提案発表について検討 ・指導と評価について情報交換 ・県作品展出品作品集約
6	22	水	千葉県教育研究会技術・家庭科研究大会
8	5	金	定例集会 (八幡中学校) 実技研修会
8	18	木	定例集会 (八幡東中学校) ・提案発表について検討 ・家庭分野指導案検討
11	17, 18	木, 金	全国・関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会
11	5	土	千葉県教育研究会集会 (千葉市)

11	12	土	千葉県中学校創造ものづくりフェア
11	22	火	定例集会（ちはら台西中学校） ・授業研究「消費生活・環境」 ・研究のまとめ ・県教研の報告 ・市技術・家庭科作品展について ・次年度について
1	21, 22	土, 日	市原市小中学校技術・家庭科作品展覧会 (アネッサ)

4. 成果と課題

【成果】

- ・家庭分野においては、令和5年度関ブロ群馬大会の提案に向けて、研究の方向性の確立、各分担における資料収集や授業実践、研究授業等を行うことができた。また、指導内容や評価について、情報交換を行うことができた。
- ・授業研究を参観型で実施でき、生徒の反応や様子を細かく観察できた。内容としては、知識及び技能を活かしながら課題の解決を行えるよう、問題解決的な学習の工夫に取り組んだ。家庭の収入と支出のバランスを考慮しながら、計画的な金銭管理について多面的に思考したり、情報交換をもとに改善したりする様子が見られた。
- ・作品展については、小学校家庭科部会との協力のもと、コロナ禍以前に近い方法での実施で計画を進めている。児童・生徒の学習の成果を披露する場として有効であると考えており、今後も継続して実施をしていきたい。

【今後の課題】

- ・部会員の人数減少や年齢構成のバランスの悪さが見られる。若年層の育成が急務である。また、組織としての研究部会の機能を高めるため、授業の基本的な進め方、指導や評価、学習課題（作品等）、技術科室・家庭科室の維持管理などについて、相互に情報交換をするなど、更に部員同士の横のつながりを強化していきたい。
- ・家庭分野の消費生活に関わる学習については、社会の変化や生徒や家庭の実態に即した指導内容、指導方法を検討していく必要がある。指導者側としても積極的に情報収集をし、指導に活かしていきたい。

(3) 習志野支部

(学校数 7校 会員数 技術科 7名 家庭科 7名)

1. 習志野支部研究主題

学びを生かし豊かな生活を創造する技術家庭科教育

～体験的な活動を通し、実践力を育成する指導を目指して～

2. 主題設定の理由

技術・家庭科では、「生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して生活と技術の関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」ことが目標として掲げられている。また、新学習指導要領では「家族と家庭に関する教育の充実」「食育の推進の観点から食事の役割や栄養・調理に関する内容の充実」「ものづくり教育の充実等の観点から技術の評価、エネルギー変換や生物育成の技術に関する学習の充実」といった内容の改善について示されている。

以上のことから、技術・家庭科教育では社会の変化に対応できる能力の育成が求められている。社会の急激な進歩や情報過多の中で、授業における生徒学習結果が、知識および技能の習得とともに、問題解決にあたる力をつけていくことの重要性が浮かび上がってきた。生徒が問題にぶつかったとき、自らの力でその問題を解決するためには、問題を分析し、その解決方法を考え、取り組む意欲を持つことができるかどうかにかかっている。それは、生活の様々な場面で生徒が直面する問題を解決するための学習内容の充実と工夫は不可欠であり、学習した内容を積極的に普段の生活に生かし、問題解決能力を高めていくように指導していくことが重要であると考え、この研究主題を設定した。

3. 研究の概要

期 日	研 究 内 容
4月19日	役員決め、計画づくり
5月17日	指導案検討
6月21日	授業研究（オンデマンド）
8月20日	実技研修会
9月20日	指導案検討
10月14日	I C T活用の実技研修
1月24日	今年度のまとめと反省

4. 成果と課題

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、オンデマンドによる授業研究を行い、少しでも研究を前進させるように進めてきた。市内の若年層の職員による授業研究を進め、技術家庭科職員が協力をし、教員の指導力向上に努めた。

(1) 技術科編

技術科では、電気回路の設計『はんだ付け』についての指導法や安全委作業を進め、生活で役立つ内容について理解を深め、問題解決能力を高める授業を実践した。

感想としては、

- ・生活に活かす実践力を高める題材にする
- ・保護メガネの着用や、服装についての安全指導を入れたほうが良い
- ・タブレットを使用して作業を見せたことは良かったが、説明の間も映すと良い
- ・作業のポイントは1つに絞った方が良い
- ・持続可能な社会について触れられると良い



(2) 家庭科編

家庭科では、「衣服の選択と手入れ」を題材として授業を進めた。布の特徴について考え、身近な生活に活かせる内容で、家庭で実践できる授業であった。

感想としては、

- ・五感を使って体験する学習を入れることで本質につながるため、今回のような学習はよかった。
- ・学習の手順として自分自身で考えた後に、他者と対話して考え方を広げて深めるように徹底出来るが良い。
- ・「脳に汗かく5分間」を指導のどこに持っていきかを考えて授業づくりをするのが良い。



(3) 今後の課題

今年度から感染症対策を講じながらの実施となった。研究授業についてはオンデマンド開催で、反省会については集まり、検討会を実施することができた。また、昨年からはタブレットとノート指導をどのようにしていくかが課題となっている。

また、オンデマンドでの授業研究であったため、生徒のつぶやきや気づきなどが分かりづらいため、生徒の興味や問題解決能力を深めていく手だてを研究していくことが必要である。

(4) 八千代支部

(学校数 11 会員数 技術科 7 名 家庭科 6 名)

1. 八千代支部研究主題

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するための問題解決的な学習指導のあり方

2. 主題設定の理由

技術・家庭科では、「生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通してよりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成する」ことを目標としている。そして、この資質・能力を育成するためには、生徒自らが生活や技術に関心を持ち、実践的・体験的な活動を通して習得した知識及び技能が、生活の自立につながるように活動を組み立てることが重要だと考える。また従来の実践的・体験的な活動の内容を吟味し、仕事の楽しさや完成の喜びを味わわせるなど、充実感や達成感を実感させることも大切だと考える。そして学習内容と将来の職業の選択や生き方との関わりの理解にも触れるなど、生徒の実態に応じた内容や活動を準備し、自ら問題を見出して課題を設定し解決を図る問題解決的な学習指導が重要だと考える。

3. 研究の概要

(1) 目標達成のための方法

目標を達成するために、本支部では6つの具体的な方法に基づいて研究を進めた。具体的な方法は以下のとおりである。

- ① 自ら問題を見出して課題を設定し、解決を図る問題解決的な学習指導の工夫をする。
- ② 生徒の実態に応じた学習指導と個に応じたきめ細かな指導を行う。
- ③ 基礎的・基本的な知識や技術の習得と個への対応を考慮し、生徒一人一人が工夫・発展できる題材及び教材を開発する。
- ④ 学習活動を振り返る評価についての研究を行う。
- ⑤ 小学校や他教科との関連を図る。
- ⑥ 様々な作品を見ることにより、生徒の意欲や技術の向上を目指す作品展を実施する。

(2) 研究内容

① 分野別相談会

本支部はすべての中学校に専科の教員が配属されておらず、免許外の教員が技術・家庭科を教えている中学校がある。支部の会員内にも免許外の教員を数名含んでいる。専科以外の教員の基礎的・基本的な知識や技術の習得と個への対応を図っていくためにはまず、教える側がその知識と技術を身に付ける必要がある。そのために、技術分野と家庭分野に分かれ、普段取り組んでいることや困っていること等の情報を交換し合う場を設定した。短い時間ではあったが、取り扱う教材や感染症対策をどのように行っていくかなどについて相談及び検討することができた。

② 実技研修

分野別相談会に基づき、専科の教員が講師となり実技研修会を行った。技術分野では黒檀を使ったキーホルダーの制作を行った。

この素材は堅く細かいデザインを施すには難しい部分もあるが、紙やすりなどで表面を磨くことにより光沢が出る為、個によって制作時間に差が出て磨く時間で調整することが出来るものである。実際、研修でもデザイン通りに切って簡単に紙やすりで整えたものと、光沢が出るまで磨き終わったものがあった。

家庭分野では感染症予防に対応した調理実習を行った。「1人調理」ができる教材として一人一人に土鍋を準備し、その土鍋で中華風炊き込みおこわを調理した。



材料

もち米 1合
干しいたけ 1枚 干しエビ 3g
豚バラ肉 20g (下味 醤油・しょうが汁各小さじ1)
その他好みの具

作り方： 土鍋にゴマ油を熱し、米以外の材料を炒める。
豚肉の色が変わってきたら、ざるにあげておいたもち米と調味料（醤油・砂糖・オイスターソース各小さじ1、中華だし少々、椎茸の戻し汁干しエビの戻し汁と水合わせて180ml）を入れて炊く。

炊き方：沸騰したら弱火にして15炊き、10分蒸らす。



実際の授業としての調理実習には向かないが、被災により停電になった時に備え、防災教育の教材としても扱えると考えます。今回、ガスでご飯を炊くことが初めての教員もおり、よい経験になったようである。

③ 市内作品展審査会

予定していた市内作品展の会場がコロナワクチン接種会場となった為、やむなく中止を決定し、2月に審査会のみを行うこととした。作品展で市内中学生や保護者の方々に作品を見ていただけないのは残念だが、違った形で紹介できれば良いと考えている。

4. 成果と課題

現在抱えている課題については、お互いに現状の課題や悩みを相談し合うことで、新ためて問題解決的な学習について考えるよいきっかけとなった。また、教師側が基礎的・基本的な知識及び技術の習得を目指すことで個へ柔軟に対応する手立てを見出したり、生徒が工夫・発展できる教材を開発したりすることにつながることができた。

課題としては、小学校から9年間を見通した指導ができるよう研修を重ねたり、小学校と連携したりする体制づくりを整えることなどがあげられる。また、ICTを活用した学習活動の確認や振り返り、及び評価が日常的に行えるようにしていくことが必要不可欠であると考えます。そのための研究を今後も重ねていきたい。

(5) 船橋支部

(学校数 27 会員数 技術科 23名 家庭科 22名)

1. 船橋支部研究主題

生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成 ～個別最適な学びと協働的な学びの中での評価方法の工夫～

2. 主題設定の理由

人工知能 (AI) , Internet of Things (IoT) , ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり, 社会の変化が加速度を増し, 複雑で予測困難となってきた。急激に変化する時代の中では自分のよさや可能性を認識するとともに, あらゆる他者を価値のある存在として尊重し, 多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え, 豊かな人生を切り拓き, 持続可能な社会の創り手となることができる資質・能力を育成することがより一層求められている。

令和3年度に全面実施となった学習指導要領では, 全ての教科等の目標及び内容を「知識及び技能」, 「思考力, 判断力, 表現力等」, 「学びに向かう力, 人間性等」の三つの柱で再整理された。また, 技術・家庭科の学習内容の構成は, 技術が「A 材料と加工の技術」「B 生物育成の技術」「C エネルギー変換の技術」「D 情報の技術」の四つに, 家庭科が「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の三つに整理された。技術・家庭科では, 生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して, よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて, 生活を工夫し創造する資質・能力を育成するねらいがある。

千葉県では, 平成30年度以降「生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成」に焦点をあて, 主体的・対話的で深い学びを通して, 学習の質を一層高めるための授業改善を目指している。船橋市では, 主体的・対話的で深い学びの実現を目指して, 1人1台端末の活用方法の実践に入った。端末を適切に活用し, 学習活動を充実させることで, 多様化する生徒たちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びの実現を目指して学習活動に取り組んでいる。探求的な学習や体験活動などを通じ, 生徒同士, あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働することで, あらゆる他者を価値のある存在として尊重し, 様々な社会的な変化を乗り越え, 持続可能な社会の創り手となると考えている。

学習指導要領の改定により, 観点別評価については「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理された。その中で「主体的に学習に取り組む態度」には, 粘り強い取組を行おうとする側面と自らの学習を調整しようとする側面の二つの側面がある。この観点には, 自らの学習状況を把握し, 自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが求められている。そのため, この観点を適切に評価する方法について検討する必要がある。

以上のことから, 船橋市では1人1台端末を活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指し, 指導と評価の一体化により, よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて, 生活や技術を工夫し創造する実践的な態度を育成することができると考え, 本研究主題を設定した。

3. 研究の概要

研究内容 (各月 上段：技術 下段：家庭)

月	日	研究種別	研究内容	会場
4	27	総会	役員選出・研究主題・年間計画の検討	二宮中学校
5	18	全体研修 全体研修	県研究大会研究授業に向けた指導案検討 Chrome book の活用法について	法田中学校
6	8	授業研究 全体研修	子安起由教諭 県研究大会授業研 (1年生) 事例研究 衣・食の授業実践研究	二宮中学校 船橋市総合教育センター
7	6	全体研修 全体研修	森考浩教諭「安全に利用するためのデジタルシティズンシップ」(3年生) 事例研究 住生活、消費生活、家族・家庭生活について	坪井中学校 船橋市総合教育センター
8	9	企業見学 自主研修	植物工場見学、木工所見学 教材研究 自主研修	プランテック、吉田木工所
9	21	全体研修 全体研修	船橋市教育研究大会 船橋市教育研究大会	法田中学校 二宮中学校
10	27	全体研修 全体研修	本間一郎教諭 実技研修「トグルクランプ製作」 講演 明治食育セミナー「チョコレートの世界 SDGs」 「考えよう!明日の体づくり」	三山中学校 二宮中学校
11	17	全体研修 全体研修	指導法研究 評価方法の検討、関プロに向けて 道本理恵子 教諭 授業研究 購入・支払いと生活情報 「いろいろな支払い方法」	法田中学校 船橋市総合教育センター
1	11	授業研究 授業検討	本間一郎教諭 実技研修「コケ玉づくり」 実技研修「織物づくり」	三山中学校 金杉台中学校
2	1	全体研修 全体研修	研究のまとめ・次年度の方向性 研究のまとめ・次年度の方向性	法田中学校 船橋市総合教育センター

4. 成果と課題

(1) 技術

①成果

ア 久しぶりに実技研修を行うことができた。作業におけるジグの整備、教室環境の整備について先輩教員から指導を受け、参考となる点が多かった。

イ 千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会研究大会に伴い、評価方法や年間指導計画などを大学教員から指導を受けながら見直し、検討することができた。

②課題

ア 市教研発表や指導案検討等には、余裕を持って事前指導を受けて行いたい。

イ 関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会に向けて、引き続き研究を進めたい。

(2) 家庭

①成果

ア 今年度は全ての研修が会場で実施することができた。そのため、単元ごとの授業実践報告を2回実施することができ、指導方法だけでなく1人1台端末 Chrome book の活用方法や3観点の評価方法についてなど意見交換を交えたことで、各学校の実践に繋げることができた。

イ 授業研究では、久しぶりに講師を招くことができ、知識の向上や授業への活用方法を身につけることができた。

②課題

Chrome book の活用法については、学校毎で活用頻度や使用方法の悩みが生まれているため、使用方法の研究をさらに深めていく必要がある。

(6) 市川支部 (学校数 16校 会員数 32名)

1. 研究主題

生活や技術を工夫し創造する思考力・判断力・表現力を育成する学習指導の在り方
～主体的・対話的で深い学びを通して～

2. 主題設定の理由

市川市では以下の視点を重視した授業改善について、3つの目標が掲げられている。

- (1) 生徒自身が見通しをもって自らの学習を振り返り次につなげる「主体的な学び」の実現
- (2) 他者との関わりの中で、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」の実現
- (3) 学習の過程の中で、問題発見・解決を念頭に置いた「深い学び」の実現

これらをふまえ、生徒が主体的に問題解決を図り、仲間の力を借りながら、あるいは互いに協働しながら、思考力・判断力・表現力を高め、深い学びを経験していくことが、今後、技術革新の進んだ社会で生き抜く力を身につけていくための大切な一歩と考える。

3. 研究の概要

(1) 技術科分野

月	日	研究種別	研究内容
6	8	定例研	年間計画の作成と検討、部会組織決定
9	14	定例研	タブレット基礎研修 プログラミング教材について情報交換
11	30	定例研	タブレット研修 技術・家庭科における ICT 活用 ～授業の Teams 活用事例～
1	11	定例研	来年度に向けて
2	8	定例研	実技研修

① 9月 (タブレット基礎研修)

職員、生徒に配布されているタブレットに関する基礎研修を行った。プログラミング学習もタブレットを活用して生徒たちに理解を深めさせていきたい。また職員においてもタブレットを活用して、生徒たちがわかりやすく学べる工夫ができるよう、情報交換を行った。

② 11月 (タブレット研修)

生徒、職員に配布されているタブレットについて外部講師を呼んで行った。内容は下記の通りである。

ア Teams 内での写真データ共有

イ Microsoft Forms

ウ Teams による Excel の共同 (同時) 編集

エ Microsoft Whiteboard

オ Teams 課題機能とルーブリックの設定、評価

時間の都合上、全てを細かく実践していくことはできなかったが、講師の方の実践例を参考に今後の授業に生かせる研修となった。

(2) 家庭科分野

月	日	研究種別	研究内容
6	8	定例研	年間計画の作成と検討、部会組織決定
9	14	定例研	授業研の報告・反省
11	30	定例研	タブレット研修「技術・家庭科における ICT 活用～授業の Teams 活用事例～」
1	11	定例研	指導案を持ち寄っての授業研究
2	8	定例研	指導案を持ち寄っての授業研究

今年度の授業研究の内容や情報交換では、

- ①消費生活分野において、インターネット利用についての授業をおこなった。「事実とは異なる情報」や「情報に振り回されること」についての事例の問題点を個人で考え、班で意見交換をおこなった。その後の全体発表では、意見が止まらず時間内に終わらないほどだった。
- ②衣生活分野において、バッグ作り（底まち）の授業をおこなった。ミシンが苦手な生徒はなかなか進まないようだった。段階見本を用意すると完成までの道のりを生徒がイメージしやすいので良かった。また、底に固めの板を敷いて、はみでた部分を縫うと簡単にまちを作成できるという意見がでた。
- ③保育分野において、幼児に向けた絵本の読み聞かせに関する授業をおこなった。生徒は懐かしい絵本が多くあり、楽しんでいた様子だった。保育分野でおこなうおもちゃ作りの評価の仕方について各学校で意見を交換し、おもちゃ作りや絵本作りで裁縫や絵の技能に目が向いてしまっていないか注意をする必要があることが分かった。

タブレット研修では、演習として Teams 内での写真データの共有や Microsoft Forms を使用したアンケートの仕方、Excel の共同作業など、授業研究での指導案作成や授業ですぐに利用することができる活用方法についてご指導いただいた。



4. 成果と課題

(1) 技術科分野

今年度も外部の講師を呼んでの研修を行うことが出来た。実際の授業で実践している内容を学ぶことができ、日々の授業実践に役立った。タブレットの活用により、新指導要領に対応した授業の形、評価方法について、今後も洗練されたものとなるよう教員間の情報交換や外部の方に指導していただく機会を継続して持てるようにしていきたい。

(2) 家庭科分野

他校の授業の様子を伺うことができ、日々の自身の授業を見直す良い機会となった。タブレットや ICT 機器の授業での活用が当たり前になりつつあるため、ICT 活用の仕方や事例を部会で話し合い、教員や学校間で差ができぬよう情報共有をおこなっていきたい。

(7) 浦安支部

(学校数 9 会員数 17 技術分野 8名 家庭分野 9名)

1. 浦安支部研究主題

生活の中で課題を見出し、自ら進んで工夫し、創造する生徒の育成

2. 主題設定の理由

本市は学習指導要領の目標のうち、特に以下の3つ目標において研究を進めてきた。

- (1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに関する技能を身につけるようにする。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

新学習指導要領は3観点となり、適切な評価や充実した授業実践のための教材研究を行う。それぞれの課題が明確になってきたため、評価を含めての教材研究を行う。さらに、昨年度は若年層教員研修等の研修が行われなかったため、部会研修の中で実技研修を設けたい。

3. 研究の概要

(1) 研究計画

回	月日	場所	内容
1	5/11	富岡中学校	研修計画作成
2	6/1	日の出中学校	教材研究
3	11/16	日の出中学校	教材研究
4	1/18	日の出中学校	教材研究
5	2/1	日の出中学校	年間のまとめ

(2) 研究内容

① 技術分野

「A 材料と加工の技術」に関する内容の製作を行った。製作を通して、生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに関わる技能を身につけさせるにはどのように指導すべきか情報交換を行った。また、「D 情報の技術」では、「ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決」の指導で、各校がどのような取り組みを行っているのか、教材は何を使用し以前とどのような違いがあるのか等情報交換を行い、これからの授業実践に向けて協議した。

② 家庭分野

新学習指導要領は3観点となり、適切な評価や充実した授業実践のための教材研究を行った。各観点の評価について各校の現状や課題について情報交換を行い、次年度以降の評価方法の改善に向けて協議した。また、充実した授業実践を行うために教材研究を行い、他市で使用されている教科書も参考にし、効果的な学習が期待できる教材について協議した。

4. 成果と課題

(1) 技術分野

「A 材料と加工の技術」において、教材を通して新学習指導要領の生活と技術についての基礎的な知識と、それらに関わる技能を生徒に身につけさせるための指導方法を確認することができた。また、今回の製作では、若年層教員の実技研修を兼ねて、丸のこ昇降盤など大型機械を使用した。このような教員自身の技能を向上させる時間が必要だと考える。

「双方向性のあるプログラミング」についても、各校の取り組みや授業実践を共有することで、技術科としての教材研究を見直すことができ、浦安支部全体で新学習指導要領への理解を深めることができた。このような部会研修のみならず、日頃から学校間で実践報告や、指導案等を共有し、各教員の能力を向上させることが今後の課題である。

(2) 家庭分野

新学習指導要領の3観点の適切な評価のために、どのような評価材料が適切で必要なのかという点について協議することができた。各校の具体例を共有し、次年度以降の実践の中で活用することで、評価の改善につなげることができるのではないかと考えた。

充実した授業実践を行うために、他市で使用されている教科書の教材について協議し、現状の授業の中にどういった形で活用できるかについて考えを深めることができた。

評価・授業の充実共に、次年度以降に実践していくことが必要となる。その中で新たな気づきや改善点などを見つけ、部会研修の中で共有し、常にアップデートしていくというサイクルを作ることが今後の課題である。

(8) 東葛飾支部

(学校数 中学校 73校 会員数 技術科 95名 家庭科 81名

技術・家庭科兼任 2名)

1. 東葛飾支部研究主題

「実践的・体験的な活動を通して
生活に活かす力を育む技術・家庭科教育」

2. 主題設定の理由

千葉県北西部に位置する東葛飾地区は、松戸、柏、野田、流山、我孫子、鎌ヶ谷の6市で構成されており近年は、つくばエクスプレスの開通に伴う開発が加速し、沿線である柏市北部や、流山市は人口の増加が著しい。その影響を受けて今年度より流山市に新設校が開校し東葛飾地区内の中学校数も73校となった。今後も開発がますます進む地域がある反面、生徒数が減少している地域がみられ、ますます生徒をとりまく環境の違いが大きくなっている地域である。

技術分野の授業では、生徒自身が問題を発見するとともに、適切に課題を設定し、プログラミングを含めた学習活動を通して課題解決能力を育成できるように学習指導する必要がある。中学校学習指導要領は2021年度から全面実施となり、文部科学省によって内容「D 情報の技術」に関わる研修用教材やプログラミング教育実践事例集が公表された。しかし、D(2)やD(3)を取り扱う授業の立案時に参考となるような報告は皆無に等しい状況である。そのため本研究では、技術科のプログラミング学習における問題発見に関する指導者の意識調査を行い、その結果を踏まえてどのような授業を展開すればよいか考察することを目的として、我孫子市・柏市内の先生方が協力して研究に取り組んだ。

また、家庭分野では、コロナ禍の生活環境の変化により、様々な体験活動が制限・縮小されている中で、授業を行っている。「A(3)家族・家庭や地域の関わり」における高齢者の学習では「家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解すること」や「家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること」が求められている。また、これからの中学校家庭科の高齢者学習は地域の高齢者と関わる活動などを通じて「多様な高齢者を理解すること」「高齢者との協力・協働する態度を涵養すること」を視点に行うべきであると考え、野田市・鎌ヶ谷市の先生方が協力して研究に取り組んでいる。

授業でも生徒一人一人の経験の差が理解度の差を生む要因となっている。授業数の少ない中で、少しでも生徒の理解を高めるために先生方は様々な所で模索している日々である。東葛飾管内の様々な市を超えて、生徒たちのために指導力の向上、生徒の達成感が得られる活動を目指して主題を設定した。

3. 研究の概要

東葛飾支会は、東葛飾教育事務所管内6市（松戸市・柏市・野田市・流山市・我孫子市・鎌ヶ谷市）の小学校146校・中学校73校で運営している。令和元年度までは、毎年研究大会を実施していたが、管内の技術教育センターが6市の輪番での運営となり、それに伴い、毎年行っていた研究大会も、6市の輪番としている。従って、本年度は東葛飾支部内での研究大会は実施していない。

令和6年度に我孫子市・野田市において関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会に向けて準備を実施することとなっている。

研究主題に対する研究活動は、各市の千教研技術・家庭科部会、または技術・家庭科主任会などにおいて活動している。

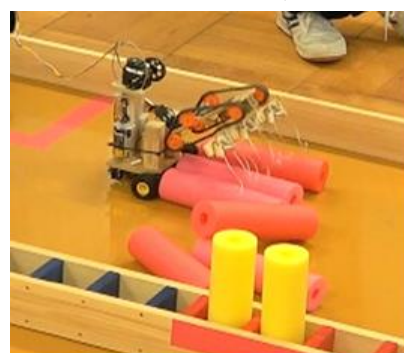
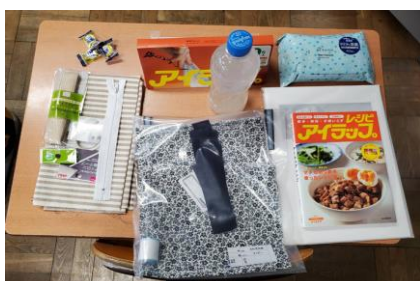
以下に本年度の東葛飾支会の活動内容を示す。

期 日	内 容	活 動
5/9	第1回技術教育センター運営委員会	活動方針
6/14	東葛飾支部幹事会	東葛飾支会幹事会活動計画
6/22	千葉県研究大会、作品展、総会	総会の参加・作品展出品
8/1	千葉県中学生創造ものづくりフェア千葉県大会準備会	参加（中学校部 役員参加）
11/17 11/18	全日本・関東甲信越技術・家庭科研究大会	参加（資料参加）
2/14 ～ 2/21	作品写真データ提出（1/10）	作品集の準備 支会代表出品作品の選出 諸連絡通知
	写真データ整理（1/11～20）	
	千葉県教育研究会技術・家庭科部会への作品選出（1/24）	
2/22	第2回技術教育センター運営委員会	活動報告・次年度準備 反省会
	東葛飾支部幹事会	

4. 成果と課題

技術・家庭科は、一人で全学年を担当したり、他教科の教員が持ったりすることが多く、教科指導で様々な課題を抱えて、誰に相談したらよいか悩んでいることが多い。こうした中、技術・家庭科の永遠の課題でもある「実践的・体験的な活動を通して生活に活かす力を育む技術・家庭科教育」を研究主題として我孫子市・柏市・野田市・鎌ヶ谷を中心に研究に取り組み、流山市・松戸市もそれぞれの支会で教材研究を行ったり、他施設を活用したりしながら新しい教材開発に目を向け始めた。

技術分野・家庭分野ともに、各市の取り組みが報告され、協議では多くの意見や質問が出され、参加者が内容を持ち帰り、すぐにでも授業で取り組むことができる、とても有意義な実技研修会になった。また、東葛飾地方家庭科、技術・家庭科作品集も、出品作品から各市の題材や指導法などを学ぶ機会となり、様々な視点から技術・家庭科の方向性を確認することができた。今後、団塊の世代の退職期を迎え、新規採用教員が増えていくことから、さらに多くの先生方が参加していただけるよう働きかけるとともに、千教研東葛飾支会と各市における千教研、または技術・家庭科主任会としての活動や連携ができる体制づくりが必要と考える。



(9) 印旛支部

(学校数 小学校 104 中学校 49 会員数 小家庭 35 技術科 32 家庭科 40)

1. 印旛支部研究主題

確かな知識と技能を身に付け、社会の変化に対応し、
生活や技術を工夫し、創造する力を育む学習指導のあり方

2. 主題設定の理由

現代の子どもたちを取りまく生活環境は科学技術の進歩とともに大変便利なものになってきている。しかしながら、子どもたちはものをつくり、活用する生活体験が少なくなり、生活に係る知識及び技能などが徐々にではあるが劣ってきている。

新学習指導要領において、小学校では、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを重視している。また中学校では、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを重視している。

それらを踏まえ、授業を通して子どもたちに身近な生活や技術に目を向けさせ、興味・関心を高めることにより、自ら学ぶ意欲が喚起され、生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだすことができるようになる。そして、「生活の営みに係る見方・考え方」や「技術の見方・考え方」を働かせ、問題解決的な学習を充実させることにより、生活や技術に係る基礎的な知識と技能の習得が図られ、自分の適性にあった創意工夫が生まれるものと考えられる。そのことにより児童・生徒一人一人における家庭生活や社会生活が充実し、生活を工夫し創造する資質・能力の育成を図ることができるであろうと考え、本主題を設定した。

3. 研究の概要

(1) 行事

①定期総会 5月6日(金)

書面による議決。昨年度の報告、今年度の研究主題、研究内容、行事予定等を確認。

②中学校技術・家庭科実技研修会 7月27日(水)・28日(木)

佐倉市立佐倉中学校で実施。感染症拡大防止対策として各分野担当者を2分割し、2日間に分けて県伝達講習を行った。

③小学校家庭科実技研修会 8月3日(水)

成田市立本城小学校で実施。県伝達講習を行った。

④印旛地区教育研究集会 8月24日(水)

技術科、家庭科共にオンラインで実施。参加者は画面を見ながら提案を聞き、提案に対する質問や意見、講評についてもオンラインで行った。

⑤第18回千葉県中学生創造ものづくり教育フェア 11月12日(土)

印旛地区から1校がロボコンに参加。

⑥関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会(栃木大会) 11月18日(金)

家庭科紙上提案

⑦第62回印旛地区小学校家庭科、中学校技術・家庭科作品展 11月25日(金)

コロナ前と同等の規模で開催。まず、印旛支部内1～5部会の各部会において審査をかけ、特に優れたものを支部作品展へ出品した。一般公開も二日間行った。

[第62回 印旛地区小学校、中学校技術・家庭科作品展の様子]



(2) 研究について

昨年度は書面による提案とWeb上の協議という形で行ったが、今年度はオンラインでの実施とした。かつてのように一堂に会しての開催とはならなかったものの、画面越しに顔を合わせて質問や意見交換を行うことができた。

①技術分野

今年度は第1部会（佐倉市）による「【D：情報の技術】情報社会の危険性を知り、今後の情報端末の活用を豊かにする工夫～Wordの機能を活用し、情報モラル通信の作成を通して～」が提案された。今の子供たちを取り巻く現状を踏まえ、自ら情報端末機器を活用し、SNS等の危険性を調べまとめることで、より深い知識を得て正しい活用方法を身につけさせていく手立てを研究・実践した提案であった。

②家庭分野

小学校による「家庭科から家庭へ～学習したことを家庭生活に生かし、継続的に実践できるようにするための家庭との連携は、どのようにすればよいだろうか～」と、中学校による「社会の変化に対応した家庭科教育の展開～コロナ禍におけるICTの活用～」の2本が提案された。小学校の提案内容は、提案した5校それぞれが、研究主題に沿って、単元の特色、実態を考慮した独自の試みを行い、それぞれの成果や課題を実践報告するものであった。中学校の提案は、コロナ禍における効果的なICTの活用について指導計画や題材を工夫し、実際に授業で実践したものをまとめたもので、これからの教育に必要な観点を研究として位置付けた提案であった。

4. 成果と課題

今年度は、各小中学校において児童・生徒が情熱を持って製作した作品をコロナ前と同じ規模・形式で展示し、3年ぶりに作品展を開催することができた。また、支部の技術・家庭科担当者が一堂に会して審査を行い、賞を授与することを通して指導法研修をすることができた。

技術・家庭科の教員は各学校に一人ずつしかいないことが多く、研究集会や作品展で他校の技術・家庭科担当の先生と顔を合わせ、質問したり意見を交換したりする機会がとても重要だと考える。ICT機器を最大限に活用し、学習指導要領に則した授業実践の積み重ねと支部内の先生方とのつながりを更に深めていきたい。

(10) 香取支部

(学校数 中学校 10校 技術科 8名 家庭科 3名 小学校 21校)

1. 香取支部研究主題

自ら課題をもち、実践活動を通して解決する力を育む学習過程の研究

- (1) 中学校 学習指導要領の研究、教材研究、研究実践の積み上げ
- (2) 小学校 学習指導要領の研究、研究実践の積み上げ

2. 主題設定の理由

技術・家庭科の目標は「生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。」である。

香取支部の生徒や地域の実態として、次の点が挙げられる。

- (1) 農村地域でありながら、生活体験の不足、ものづくり体験が不足している。
- (2) 祖父母の農業従事者は多い。父母世代は、地元及び近隣の鹿嶋・成田方面へ勤務している者が多い。

また、香取支部は平成22年度県研究大会時の研究主題「確かな知識と技術を身に付け、自ら課題を解決していく力を育む学習指導のあり方」を継続して研究を行っている。これらから本主題「自ら課題をもち、実践活動を通して解決する力を育む学習過程の研究」を設定した。

3. 研究の概要

(1) 研究の仮説

学習活動の中に意図的に問題解決的な学習を取り入れ、繰り返し行っていくことで、児童生徒の「問題発見能力」「問題解決能力」が高まるであろう。

(2) 研究方法

これまでの研究を継続するが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、可能なものを実施していく。

- ① 各学校で日常の授業の充実に努める。
- ② 公開授業に積極的に参加し、その内容を支部内に伝達する。
- ③ 校内研究会などの機会に、授業を公開するとともに研究協議を充実させる。
- ④ 研究レポート等の提案発表を行い、課題解決のための協議を行う。
- ⑤ 実技研修会において、自らの技能向上を図る。
- ⑥ 作品展の際、作品を通して授業実践の情報交換を行う。

(3) 研究実践

- ① 各学校での授業実践に、課題を認識して取り組むことが出来た。
- ② 各学校の校内研究会は、感染予防のため授業公開は出来なかった。
- ③ 実技研修会を夏季休業中に、3年ぶりに実施した。

ア 家庭科分野

「縫い方見本」の作成を行った。各学校で活用できるも様々なタイプの見本が作成できた。

イ 技術分野

プログラミング教育について「micro:bit」を中心にセンサー等を利用した研修ができた。

- ④ 教育研究協議会では、中学校の家庭分野から「自立する消費者を目指す実践ワークの研究－意思決定プロセスの活用を通して－」の提案があった。B 衣食住の生活とC消費生活・環境の内容を含めた「Top of the lunch」という題材についての取組であった。中学生に必要な栄養の学習からの各競技に合わせた献立作りを行い、さらにそれを「ランチメニュー」としてCM等を考えてプレゼンテーションを行う学習についての提案であった。「販売」側という立場を変えた視点で考えることで、より主体的で深い学びにつながる内容で、各校の実践にとっても参考になった。
- ⑤ 作品展では、今年度も展示は行わなかった。今まで展示に利用していた施設が変更となり今後の実施方法の検討が必要である。しかし会員が集まって優秀作品を選考を行うことで、工夫した作品・新しい題材等を検討することは実施できた。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ① 指導力の向上に欠かせない、実技研修会を3年ぶりに参集型で実施することができた。実物を参加者が共有しながら研修することで、資料だけでは分かりにくい具体的な修正や工夫がしやすく、研修の効果を高めることができた。
- ② 作品展として展示は出来なかったが、中学校の優秀作品の選考を通して、新しい題材のヒントや、各学習での基礎的・基本的な技能の確認が出来た。審査を通して、研修のよい機会となった。
- ③ 研究部員は少なく会議等の機会も減ってしまったが、研修会の折りには、日頃の疑問点や聞きたいことを気軽に聞くことが出来た。

(2) 課題

- ① 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各校の研究会が公開できなかった。また、各校に常勤の授業担当者が少なく、講師が担当している学校が多く、研修会等に参加できずに情報交換等も出来ていない学校がある。
- ② 児童生徒の減少に伴い、小・中学校の統合が進められている。今後さらに統合が行われていく。このため、香取支部として、研究・研修内容、作品展等の行事での運営面の改善を迫られている。

※ 香取支部としての本年度の行事

- | | | |
|------------|---------------------|---------------------------------------|
| 4月15日 | 研究部総会 | 行事、決算・予算、役員改選 |
| 5月18日 | 役員研修会 | 令和4年度の行事運営の詳細確認
県作品展の出品作品の審査 |
| 8月 2日 | 小学校家庭科実技研修会 | |
| 8月 3日 | 中学校技術・家庭科実技研修会 | |
| 8月 4日 | 技術・家庭科実技研修会 | |
| 8月18日 | 研究協議会 | 中学校家庭分野の提案及び協議 |
| 1月25日 | 役員研修会 | (作品審査・来年度の活動を検討)
→中止 2月1日の研修内容に含める |
| 1月26日～2月1日 | 小学校家庭科、中学校技術・家庭科作品展 | →作品展示の中止 作品審査は2月1日に実施 |
| 2月 1日 | 役員研修会 | (作品展反省・来年度の活動の見通し) |

(1 1) 東総支部

(学校数 15校 会員数 技術科 11名 家庭科 13名)

1. 東総支部研究主題

【技術分野】

持続可能な社会の構築を意識させる生物育成の技術における地域題材の開発

【家庭分野】

持続可能な家庭生活を主体的に営もうとする児童生徒の育成

2. 主題設定の理由

【技術分野】

学習指導要領において、生物育成の内容については作物の栽培の他、動物の飼育及び水産物の栽培のいずれも指導の必須となり、私達指導する教員側もその知識が不十分であるため、知識の習得と指導力向上を目指した授業改善の工夫を行っていくことが重要となる。また、実習や体験的な学習を積み重ねることで主体的な深い学びを充実させることができる。

【家庭分野】

SDGs が他教科の学習の中にも取り入れられている状況である。SDGs の目標を達成するために、毎日の生活に密接に関わっている家庭科の学習だからこそできることは何か。また、どのようなアプローチが有効であるかを研究していくことが有意義であると考えた。環境の視点からも、環境に配慮したよりよい生活や持続可能な社会の構築に向け、問題を見極め、問題を解決するための解決策を構想して、健康で豊かなよりよい食生活を実践しようとする生徒の育成を目指す。

3. 研究の概要

(1) 研究の仮説

【技術分野】

地元企業や中学・高校の連携を図り、横断的な視点から学習の積み重ねや学びの繰り返しを効果的に行えば、学んだことを実生活に活用し、主体的な生活を営むことができるであろう。また、地域の水産業の実態を把握し、課題を検討することで、社会と技術のつながりを意識させ、持続可能な社会の構築について考える力を育むことができるであろう。

【家庭分野】

地域の食材や人材の活用を通じた指導方法の工夫や授業改善を行うことにより、基礎的・基本的な知識や技能を習得し、生活の自立を目指していこうとする意欲や態度が高まるであろう。

(2) 研究内容

【技術分野】

①校外での研修

茨城県栽培漁業センターでの研修視察では、有用な魚介類を人の手で卵から「種苗」と呼ばれる稚魚・稚貝に育てて海に放流することにより、これらを増やしながらか漁獲する取組で、種苗を大量生産する栽培漁業の施設を見学した。特に種苗の生産技術が確立し、安定した放流効果が得られているヒラメとアワビの管理方法を学んだ。

②動画教材の作成

研修視察で撮影した動画や静止画像を編集し、各学校で指導の手立てとして活用できるように工夫した。

【家庭分野】

①各学校の実施共有

持続可能な家庭生活に関する指導・実施内容について、部会内で発表し合い、情報交換をおこなった。それにより、指導・実践への意欲の高まり、すぐに取り入れられることについては、それぞれの授業実践に活かすことができた。

②校外での研修

小中学校以外での SDGs の取組について校外研修を行った。夏季休業中の研修では養鶏業を中心に営んでいる企業を訪問し、飼料に余剰米を活用したり、鶏卵の廃棄削除の一つとして「バームクーヘン」を作ることや、まちづくりへの貢献のため「おすそわけ食堂」など様々な取組について教わることもできた。

4. 成果と課題

【技術分野】

小学校で実際に栽培漁業をしている場面を見た経験があっても、知識がまだ発達段階であることから、中学校の技術科の授業で今回作成した質問動画を視聴させる事で想起させながら授業を進められるのも効果的であると感じた。また、身近にこのような活動をおこなっている施設があることで、生徒が持続可能な社会の構築や将来の展望等への意識を高めることができた。

【家庭分野】

新たな研究に向けての研究主題や研究の方向性を検討することができた。

研修方法は、外部機関との連携を図ることができた。地元企業だけでなく高等学校にも御協力いただいた学校もあった。次年度以降の、家庭科教育における取組についての更なる研究の広がりや可能性を感じることもできた。

(12) 山武支部

(学校数58 会員数 技術科17名 家庭科30名)

1. 山武支部教育研究主題

人との関わりをとおした学びから、豊かな生活を創造する態度を 育成する技術・家庭科教育の在り方

2. 主題設定の理由

小学校家庭科、中学校技術・家庭科においては、実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し、それを解決する力や、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする態度の育成を目指す必要がある。

「技術分野」では変化する時代にありながら、持続可能な社会の構築やものづくりを支える能力の育成、また技術を適切に評価し活用できる能力の重視など、社会の変化に対応する視点からの改善が必要である。一方、「家庭分野」では、少子高齢化や家庭の機能が十分に果たされていないことへの対応や食育の推進など、社会の変化に対応した学習を行わなければならない。

しかし、現状を見てみると、「授業で学習したことを生活や社会の中で、確実に活かしているか定かではない」ようである。授業で学んだことを活かすため、思考力・判断力・表現力を育むような授業のあり方について研究を進めていく必要がある。言語活動を重視し、生徒同士の主体的な学び、対話的な学びが実施されるよう工夫する必要がある。また、確かな「教え」とおして、基礎的・基本的な知識と適切な技能の定着を図るとともに、課題を見だし解決を図る問題解決的な学習のあり方について研究を進めていくことが重要であると考え、本研究テーマを設定した。

3. 研究の概要

(1) 研究内容

- ・学習指導要領に即した指導内容と言語能力の育成を取り入れた授業研究を進める。
- ・学習指導要領の趣旨・内容を踏まえ、題材の開発や授業の工夫改善、評価方法と評価の判断基準の見直しをする。

(2) 運営方針

- ・研究活動及びその他の部会事業をとおして、会員の力量の向上を図る。
- ・年間の諸活動における会員の要望を集約し、次年度の運営方針案に反映させる。

(3) 年間計画

- ・ 5月 6日(金) 山武教育研究総会 (Web会議)
- ・ 6月 2日(木) 第1回同一研修会 (各会場)
- ・ 8月 3日(水) 実技伝達講習会 (東金中学校)
- ・ 8月 24日(水) 教育研究集会 (各会場)
- ・ 11月 10日(木) 第2回同一研修会 (各会場)
- ・ 1月 13日(金) 小中学校技術・家庭科主任会 (東金中学校)
- ・ 2月 3～5日(金～日) 山武郡市小中学校技術・家庭科作品展 (東金サンピア)

(4) 実践の概要

①小学校部会

- ア **第1回同一研修会** 大網白里市立白里中学校を会場に、第一生命池本氏を講師としてお迎えし、「ライフサイクルゲームを通じて消費者教育を学ぶ」の講話をいただいた。実際にライフサイクルゲームを体験し、生涯でどれくらいお金がかかっていくのか改めて考えるきっかけとなった。

- イ **教研集会** 片岡 千恵子教諭（松尾中）による、小中5年間を見通した消費者教育の取組～中学校区内小学校3校での一斉オンライン授業を通して～
小中5年間を見通した消費者教育についてオンラインによる授業を3つの小学校で展開し、指導内容を統一していく取り組みが提案された。
- ウ **第2回同一研修会** 横芝光町立横芝中学校の秋葉弘江先生により、「情報を活用した上手な購入」～買い物名人になろう～を題材に授業展開を行った。令和6年度関東ブロック大会に向けて授業検討する機会となった。

②中学校技術・家庭科部会（技術分野）

- ア **第1回同一研修会** ZOOM 会議を利用して、株式会社イスペット藤岡氏を講師としてお招きし、情報分野におけるプログラミング学習教材である、マイクロビットの活用方法を教授いただいた。イギリス国営放送主導で開発されている教材であり、様々な方法で活用可能な実践例を紹介いただいたため、実際に試行錯誤しながら、各授業実践に生かしていくきっかけとなった。
- イ **実技伝達講習会** 吉田樹央教諭（東金西中）・峰太郎教諭（東金中）を講師に、身近な材料で生活を豊かにするものづくりを学んだ。木材を利用した燻製器を作成した。生活を豊かにすることに着目した題材であることはもちろんだが、100円均一で代替可能な材料を利用することで、継続的に利用することができるという視点を学べた。
- ウ **第2回同一研修会** 大網白里市立大網中学校を会場として、山武支部教育研究会をよりよく運営するための意見交換を行った。参加率を高めるために研修内容を精選することや、部会員同士がつながりやすくするための方策などについて議論を重ねた。

③中学校技術・家庭科部会（家庭分野）

- ア **第1回同一研修会** ※小学校部会と合同実施のため、記載省略。
- 第2回同一研修会** ※小学校部会と合同実施のため、記載省略。
- イ **実技研修会** 浅野恭子教諭（光中）・内山潤子教諭（東金中）を講師に、消費者教育を第一生命のライフサイクルゲームを活用する授業内容を学びました。また、リバーシブルバッグを製作した。既製で売られているキットではなく、布を一から採寸しオリジナルのバッグの製作の手順を知ることができた。

4. 成果と課題

(1) 研究の成果

授業者や研修を担当された講師の方々のご尽力により、参加者にとって、新たな知識や技能、実践してみたい工夫などが多く伝えられ、どの研修会も有意義なものであった。

(2) 今後の課題

本教科の特性を生かし、思考力・判断力・表現力等の能力を高める授業や研修の工夫をさらに進めていかなければならない。また、本支部においては、経験の少ない教諭が増えていることから、指導するための知識や手法、技能の共有や評価方法などを協議する場を増やす必要がある。

(13) 長生支部

(学校数 中10校 小9校 会員数31名 中技術8名 中家庭10名 小家庭 13名)

1. 長生支部研究主題

生活や社会の中から問題を見だし、
自ら解決策を構想し実践する力を育成する学習指導のあり方
～主体的・対話的で深い学びを通して～

2. 主題設定の理由

技術・家庭科の学習では、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成すること」を目指している。

そこで本支部では、未来の社会を牽引する子どもたちが、技術・家庭科の学習により、よりよい生活や持続可能な社会の構築の礎となる資質・能力を育成するという最終的な目標に着眼し、技術・家庭科の「見方・考え方」を十分に働かせて、各学習過程において設定した自らの学習問題についての最適解を見出す学習経験を通じて、よりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を身に付けるという生きる力・実践する力を育てたいと考え、本主題を設定した。

3. 研究の概要

(1) 研究計画（事業計画）※は県教委・地方技術教育センター関係

期 日	事 業 名	内 容
4月20日(水)	技術・家庭科研修会	活動計画立案
4月28日(木)	長生教育研究集会	事業報告、活動計画 書面表決
5月10日(火)	技術・家庭科研修会	令和5年度県研究大会について
6月 7日(火)	実技研修会※	micro:bitを用いた計測・制御のプログラミング
6月28日(水)	技術・家庭科教材開発研修会	教育研究集会の提案内容の検討
7月 5日(火)	技術・家庭科研修会	令和5年度県研究大会について
7月25日(火)	実技研修会※	情報通信ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミング
7月29日(金)	小学校家庭科研修会※	実技研修(伝達)
8月 5日(金)	中学校技術・家庭科研修会※	実技研修(伝達)
8月22日(月)	長生教育研究会	研究レポートの発表 リモート実施
8月23日(火)	技術・家庭科研修会	令和5年度県研究大会に受けて、講師を招聘しての理論研修
9月28日(水)	技術・家庭科研修会	令和5年度県研究大会について
10月18日(火)	技術・家庭科研修会	令和5年度県研究大会に向けた授業研究会(長南中 家庭分野)講師招聘
11月15日(火)	技術・家庭科研修会	令和5年度県研究大会に向けた授業研究会(白子中 技術分野)講師招聘
11月25日(金)	技術・家庭科研修会	作品展計画立案、今後の研究活動方針

		令和5年度県研究大会について
12月20日(火)	技術・家庭科研修会	令和5年度県研究大会について
1月27日(金)	技術・家庭科作品展作品搬入	作品展会場づくり、作品の搬入 変更
2月10日(金)	技術・家庭科作品展作品搬出	作品の搬出、会場復旧 変更
2月24日(金)	技術・家庭科研修会	今年度の反省と次年度の計画
3月14日(火)	技術・家庭科研修会	令和5年度県研究大会について

(2) 研究内容

- ① 長生教育研究集会（8月22日(月) リモートによる実施）
【提案者 長南町立長南中学校 教諭 御園 綾香】
 研究テーマ 消費生活・環境を見直し、生活を工夫する力を育む学習指導
 ～SDGsの学習を通して～
 成果 ・SDGsかるたを用いることで、SDGsについて興味をもって学習にとりくむことができた。
 ・事前課題として、身の回りの物や普段の行動を撮った写真をタブレットで撮影させた。その写真から課題を見つけたことで、日頃の消費生活と環境問題との関わりに気づかせることができ、身近な問題として捉えることができた。
 ・身近な問題として捉えられたことで、問題を解決しようという意欲の向上がみられた。
- ② 支部では、令和5年度に県研究大会・総会に向けて、研究主題を1のように定め、次の2点についての研究を進めている。
 として取り組むためである。
 ア 各学習過程において生徒が自らの学びを可視化し、自分の学習における変容を見取ることができるような仕組みをつくり、自ら解決策を構想する力を育成する。
 思考力の変容を自ら可視化できることは、「できた・わかった」が実感できることであり、更なる学びの最適解を導くための構想する力を生む原動力になるはずである。そこで、本支部ではワンページポートフォリオ(OPP)の活用を試みることにした。
 イ 「見方・考え方」という教科の特性を捉えた学習指導の工夫・手立てを講じ、実践する力を育成する。
 技術・家庭科の「見方・考え方」、学習指導要領における学習のねらいや身につけたい力、そのための題材等について取り上げ、学習指導の工夫・手立て(授業の実態)や長生地区の生徒の実態を把握するための調査を積み重ね、指導に生かすこととした。
- ③ コロナ禍における技術・家庭科教育について、今後も状況を見て推進していく。
 本地区では例年、茂原市美術館で作品展を実施している。今年度も美術館での作品展は中止となった。技術・家庭科部会は、各小中学校で作品展を実施し、学習の成果として、技術的に優れた作品を表彰し、児童生徒の主体的学びを確保するために実施することとした。

4. 成果と課題

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部は制限のある活動となったが、本部会の部員が参集しての研修会や授業研究会等は、コロナ禍前のように行うことができた。特に令和5年度の県研究大会・総会に向けた取組を通して研修が深められたことは、1番の成果である。

長生支部の作品展は、例年1つの会場で書道、造形、技術・家庭の3部会が合同で実施しているが、今年度も昨年度同様に会場を各学校とし児童生徒の主体的な学びを確保した。指導内容の変更や授業時数の関係から造形や技術・家庭科では、作品展の在り方を考えていく必要がある。

学校にある生徒用のPCが学習用タブレットに替わり、これまで扱っていた教材が使えなくなった。そこで、地方技術教育センター主催の新しい教材についての研修会に参加したり、情報交換会を行ったりする中で、新しい教材の設定と年間指導計画の見直しを行うことができた。更に研修を深める必要がある。

(14) 夷隅支部

(学校数 6校 会員数 12名 技術科 6名 家庭科 6名)

1. 夷隅支部研究主題

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活を工夫し創造する学習指導のあり方

2. 主題設定の理由

AIやそれが組み込まれたロボット等が普及する中で、持続可能な社会を構築するための人の役割を考えた時、自ら社会の中から問題を見出し、課題を設定し、解決策を構想できる能力、すなわち工夫し創造する能力の重要性が高まると考えられる。

そこで、技術分野では、学習内容を通して自分の生活を見つめ、課題を見出し、その解決する力を身に付けさせるためにはどのような学習指導をしたらよいかについて研究を進めたい。

家庭分野では、中学生としての生活の自立を目指しつつ、他との共生を考えることが求められる。そのために、学習事項を通して自分の生活の営みを見つめ、課題を見出し、その解決に取り組むことを取り入れていきたい。その際に、生徒自身が生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活を工夫することが、生きる力につながると考える。

以上のことから、夷隅支部では、技術分野と家庭分野の両方に共通する研究主題を「生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活を工夫し創造する学習指導のあり方」と設定し、研究を推進することとした。

3. 研究の概要

(1) 技術分野では、「プログラムによる計測・制御に関する興味・関心を高める指導法の一考察」を研究主題として、夷隅支部内で代表校が研究発表を行った。

① 研究仮説

ア プログラミング学習でLEGOを使用することで身近に計測・制御ができ、興味・関心が高まるであろう。

イ LEGOを使いながらプログラミング学習を行うことで問題解決能力を高めることができるであろう。



② 研究内容

ア 実態把握

授業前と後の生徒の意識調査を行った。

イ 授業実践（課題解決学習）

来客が来た時に反応するロボットの製作など、課題を自分たちで設定し、その解決について考えるプログラミング学習

(2) 家庭分野では、生活の自立に向け、自分の生活の中から課題を見つけ解決に取り組ませること、次の課題に取り組もうとする意識がもてるように取り組んだ成果を共有することを行った。

①課題を見つけるための手立て

- ・授業の最後に、学習した内容から自分の生活に生かせることやもっと知りたいことなどを記録する。

- ・「自立度チェック表」を使って、自分が生活にかかわることを実践しているか確認する。

②課題を解決するために手立て

- ・課題を解決する方法を、書籍やインターネットを使って調べる。

- ・家族と相談し、自分の家庭の実態に合った方法を決める。

③実践の記録

- ・「課題解決レポート」にまとめる。結果については、図や表、写真などを活用し、わかりやすくまとめる。
- ・レポートには、家族からのコメントを記入してもらうことで、自分の実践が家族の生活の改善にもつながっていることに気づかせる。

④成果の共有と新たな課題の発見

- ・取り組んだ内容や成果を発表する場面を作り、自分の取組を振り返るとともに、仲間の取組を参考に、次の課題を考える。

4. 成果と課題

<技術分野>

(1) 成果

アンケート結果より、授業前と授業後では興味・関心が授業前よりも高まったと言える。授業後、「地震やリサイクルなどの課題解決について知る良いきっかけとなりました。」「プログラミングを使って無人で作業をしたり、障害を持っている人を支えられるといいな。」など書いている生徒もいた。また、「今回 LEGO で作った、スパイロボットは、物の動きに反応して音を出すことができ、防犯カメラと同じ役割ができると思いました。物を感知して反応することができることはどちらも必要なプログラムだと思いました。」などの感想があり、実生活での課題解決学習に生かせそうな意見が出てきた。

(2) 課題

今回、課題を提示し、問題解決能力を高める授業を設定した。しかし、今後は、生徒の実生活の中での課題についてワークシートなどを使用して見出し、プログラミングでどのように解決していけばよいかを導いていけるような課題を設定していきたいと考える。

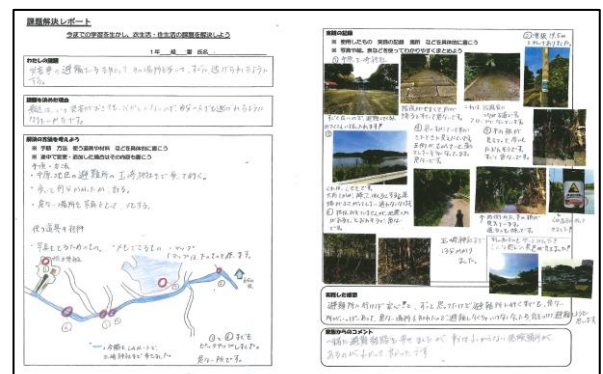
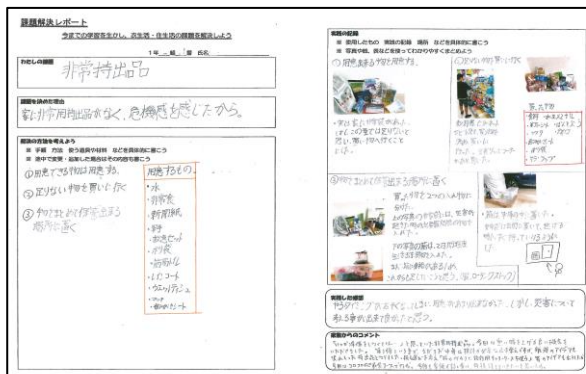
<家庭分野>

(1) 成果

- ・家庭分野の学習が始まる際に、「生活の課題と実践」に取り組むことを伝えることで、毎時間の学習の振り返りをしっかりと記録することができた。
- ・課題解決に取り組むことで、自分の手で生活をよりよくすることができることを実感できた。
- ・実践に際し、課題の内容や解決の方法を家族と相談することで、家庭の実態に合わせた課題や解決の方法を決めることができた。
- ・実践の結果を共有することで、次の課題について考えることができた。

(2) 課題

- ・自分の生活の中から課題を見つけ取り組ませる経験を重ねることで、自分の生活をより良いものにしようという意識を持たせることができると考えるが、その継続性が今後の課題である。



(15) 安房支部

(学校数 13校 会員数 14名 技術科 8名 家庭科 6名)

1. 安房支部研究主題

学びを生かし、生活を創造する力を育てる指導のあり方

2. 主題設定の理由

溢れるほどのものがある時代に、技術・家庭分野の学びを生かして、児童・生徒に生活を創造する力を育てる指導のあり方をテーマに研究を進めた。この主題を達成するためには、日々の生活に目を向けさせ、児童・生徒が自ら工夫し創造しながら意欲的に取り組める学習活動となるように、授業を改善することが必要である。安房支部では、本教科の特性を生かし、実践的・体験的活動を通して、児童・生徒が自ら課題を設定し、問題解決していく力を育てることを目指し、本主題を設定した。

3. 研究の概要

(1) 活動の概要

技術・家庭分野ともに、限られた授業時数の中で学習内容を指導できるように、個々で教材研究を行った。加えて、学習指導要領の内容を研修、検討し、年間指導計画や教材等の精選を行った。現在行っている活動が、児童・生徒の生活を創造する力を育てる指導の一助となればと部会で活動している。また、安房支部の技術・家庭分野の授業に活かせるよう研鑽を積んでいる。技術分野については関東甲信越地区技術・家庭科研究大会の提案に向けて、定期的に集まり、エネルギー変換の技術の指導方法の改善に向けての取り組みや指導計画の検討を行っている。

(2) 令和4年度関東甲信越地区技術・家庭科研究大会の提案を終えて

館山中学校 白井隆太教諭がCエネルギー変換の技術の提案を行った。研究主題を「生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成」～主体的・対話的で深い学びを通して～として、題材の学習の流れ、エネルギー変換の実習、エネルギー変換の技術とまとめについて紙面提案をした。

2年後の関ブロ千葉大会の提案に向けて、技術分野の担当者が集まる研修会を継続し、さらに研修を深めていきたい。

<題材内容>

- ① 電気分野・運動（動力）分野のどちらをメインにするか。
- ② 理論（知識）の部分の内容を充実して、まとめの内容をメインにする。
実習は、理論の部分を利用した製作題材にする。
- ③ 災害から防災につなげ、エネルギー変換の利用が工夫されていることに気づける授業。例 停電→発電ラジオ ・ 停電 → 発電所や送電線の分散の工夫 など
- ④ テーマ（視点）を生活や社会に即した内容にする。（エネルギー変換で、生徒に何を考えさせるか。）エネルギー変換の専門家の視点を取り入れる。
- ⑤ 「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを学習過程と照らし合わせて、授業改善を行う。

<理論について>

- ① 県の研究主題を受けて、安房での研究主題を検討し、決定する。
主題設定の理由や研究内容が学習指導要領に即しているのか検討している。
- ② 年間指導計画、評価規準等が学習指導要領に合っているか。

(3) 主な活動

期日	会場	活動内容
4 / 2 1 (木)	富浦中学校	一斉研修日① 「総会と役員選出、行事計画の検討」
6 / 1 7 (金)	総合教育センター	小学校家庭科研修 (中央伝達)
6 / 3 0 (木)	総合教育センター	中学校技術・家庭科研修 (中央伝達)
7 / 2 9 (金)	館山中学校	小学校家庭科実技研修会 「伝達講習」
8 / 2 (火)	館山中学校	一斉研修日② 「関東甲信越ブロック技術・家庭科研究大会に向けて」 「教研集会へ向けてのレポート作成」
8 / 3 (水) 4 (木)	館山中学校	実技研修会「伝達講習」
8 / 2 4 (水)	館山市内	安房地方教育研究集会
1 1 / 9 (水)	富浦中学校	一斉研修日③ 「作品展打ち合わせ、県教研報告」
1 1 / 1 2 (土)	白子中学校	第18回千葉県中学生ものづくり教育フェア 「ものづくり」部門 木工の技 富浦中生徒2名参加
1 1 / 2 5 (金)	富浦中学校	関ブロに向けての研修会 (技術分野担当)
1 2 / 1 6 (金)	富浦中学校	関ブロに向けての研修会 (技術分野担当)
1 / 2 7 (金)	安房教育会館	研修会 作品審査会
1 / 2 8 (土)	安房教育会館	小学校家庭科、中学校技術・家庭科作品展
2 / 3 (金)	富浦中学校	一斉研修日④ 「本年度の反省と来年度の方向性」

4. 成果と課題

技術分野では関ブロ栃木大会において、Cエネルギー変換の技術の内容で共通の授業実践を通して、生徒に「何を学ばせたいのか」、「どのように学ばせるのか」等を重視した指導計画・指導方法について提案することができた。限られた授業時数の中で、生活体験の乏しい生徒の実態を考慮した指導法の工夫として、安房支部で継続的に取り組んできた設計段階での指導を改善しながら授業を実践した。生徒自ら課題を設定し、解決しようとする態度を身に付けることができ、より良い生活を目指す態度の育成に繋がるものとなった。家庭分野では、会員が少ない中ではあるが、会員在籍校すべてが同テーマで授業実践と検討・改善を行った。日常生活に根ざした指導は、生徒の実態に即した学習支援の充実を図ることに繋がるものとなった。

今後の課題として、指導内容やカリキュラム等を考慮した、年間指導計画を改良していく必要がある。

(16) 君津支部

(学校数 72 校 会員数：小家庭科 4 名 中技術科 16 名 中家庭科 15 名)

1. 君津支部研究主題

小学校家庭科 「家庭生活を見つめ、豊かな家庭生活を創り出す家庭科教育」
～生活の自立と共生の基礎づくりをめざして～

中学校技術・家庭科
生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成
～主体的・対話的で深い学びを通して～

2. 主題設定の理由

(1) 小学校家庭科

家庭生活を見つめ、課題点を見出し、解決方法を考え、実践する。このような授業展開を積み重ねることで、児童の生活を重視した価値観を育てたい。また、豊かな生活を自ら創造する力を身につけさせたいという願いを込めて本主題を設定した。

(2) 中学校技術・家庭科

予測が困難であるといわれている今後の社会の中で、生徒が自分の夢や目標を実現させてより良く生きていくためには、粘り強く問題に取り組む姿勢や多様な人たちと協働する姿勢等が必要となる。また、持続可能な社会の実現のためには、見方・考え方を鍛え、社会の中の技術や生活を見つめなおすための力が必要である。そこで、ものづくりを通して主体的・対話的で深い学びとなるための授業改善を進め、自分の力で問題解決に必要な資質・能力を身に付けさせるために本主題を設定した。

3. 研究の概要

(1) 中学校技術分野

6月はタブレット用学習ソフトであるミライシードの実践研修を行った。特にミライシードの中にある「オクリンク」や「ムーブノート」の効果的な活用方法を学びこれからの授業実践につながる内容となった。

8月初旬には、実技研修会（県教委主催の実技伝達講習に振り替え）を行った。情報に関する技術では、「ねそプロ」と呼ばれるネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングや、「マイクロビット」と呼ばれるマイコンのプログラミングを通してセンサによるLEDの点灯等計測・制御に関する内容を体験した。

また、材料と加工の技術では、燻製器の題材を通して、与えられた資材の中で使いやすいデザインを考えながら製作を進めた。製作後は実際に燻製を行いながら、製作物の出来の検証を行うことで改良点を話し合う場面も見られた。

8月中旬は、プログラミング言語「なでしこ」の研修を行った。テキストプログラミング言語ではあるものの、日本語でコードを組むという利点を生かし、体系立てた授業の流れや双方向性のあるコンテンツの内容までを網羅した研修となった。

11月には授業研修会を開催した。木工品の製作において「身の回りを観察して生活を豊かにする」という目的に沿って、使用環境に合わせた寸法を考えると内容だった。幅や高さの調整は難しい内容だが、同じ題材を製作する生徒で班を構成するなど話し合いを進める工夫が行われており、個々の考えが深まっていた。

(2) 小・中学校家庭分野

8月初旬の実技研修会（県教委主催の実技伝達講習に振り替え）では、『「消費者教育」に関する指導法』について、「ライフサイクルゲームⅢ」を活用した実践研修を実施した。すごろく形式で人生のリスクとそれらに対する必要な知識や備え、消費者として知っておくべき消費者被害とその対策などを学ぶことができた。ライフステ

ージによってすぐろくの内容も変化していくので、将来設計も考えることができる内容であった。

また、『「生活を豊かにするための布を用いた製作」に関する指導法』について、千葉市立稲毛中学校教諭、細川佐和子先生の実践紹介があった。全国で入賞するようなものづくりの取り組みとして、ただ全員が同じものを作るではなく、課題解決学習のものづくりや、思いが伝わるような作品づくりのポイントなど、すぐにでも取り入れることのできるような工夫があり、まとめとしてポケット収納型のエコバッグ製作を行った。

8月中旬の研修では企業の訪問を行い、エネルギー循環型の場内施設の仕組み等についての場内見学を行った。牛糞を発酵して堆肥にしたり、場内レストランからでた残菜をミミズコンポストで堆肥化する仕組み、また、その堆肥を利用しての野菜作り、排水も微生物や植物の力を借りたバイオジオフィルターでの浄化など、人と自然が共存できる「持続可能（サステナブル）」な取り組みについての紹介があった。

また、場内で収穫された野菜やチーズ、卵を使用してのピザ作りをし、多様な命の循環を学ぶことができた。

4. 成果と課題

小学校家庭科は会員数も少ないため、中学校家庭科と合同で研修を行うことも多かった。特に授業研修では、小中の連携という視点からも充実した研修となった。小学校家庭科に限らず、人数の少ない部会であるため、今後もこういった研修の場を有効活用していくことが大切であると改めて感じることができた。

(1) 研修の成果

①中学校技術分野：情報に関する技術で、双方向に関する内容に苦慮している先生方が多い。そのような中で様々なプログラミング教材を実際に利用することは大変意義があり、授業で取り入れてみたいといった意欲的な声も聴かれた。特に「ミライシード」は、主体的・対話的で深い学びの授業改善につながることで期待された。また、木工品の製作では、手工具や機械工具の安全な使い方も改めて学ぶと同時に、個々の工夫が反映される題材であり、先生方がそれぞれ工夫したデザインをしたことも興味深く、授業改善につながるのではないかと感じている。

②小中学校家庭分野：「SDGs」、「持続可能な社会」が叫ばれる昨今、それ目指す上で家庭科は生活に根ざしている分様々な視点での指導が必要になっている。今回の研修ではその視点を重視した内容で学ぶことができた。授業研修では「主体的・対話的」な学びかつ、一番大切な「家庭科は楽しい」と思える授業展開があり、またそれについて意見交換を行うことでより深い学びへとつなげることができた。

(2) 今後の課題

①中学校技術分野：令和7年度に県の研究大会を君津で開催する予定となっている。家庭科との連携が必須であるが、研究組織を早めに整えて、腰を据えて研究に取り組んでいくことが急務である。また、地元の産業や技術にも目を向けていきたい。できれば、次年度は企業ともつながりを持ち、実地研修を行うなど、最新技術にも触れて、技術科教諭としての資質向上を図りたいところである。

②小中学校家庭分野：特に、中学校家庭科の課題であるが、家庭科教員の配置は学校にほぼ一人であり、また家庭科免許を持った教員がいない学校も増えている中で意見交換のできる機会がより重要であることを感じる。また、生徒の家庭での体験活動が減少していく中で、家庭科での体験がよりよい生活を送るための技能として直結していることを感じる機会も少なくない。だからこそ各単元での「持続可能な社会づくり」の視点での授業実践とその共有をしていく必要がある。

令和4年度 千教研 技術・家庭科教育部会 役員名簿

No.	役職	氏名	勤務校	校長名	郵便番号	学校所在地	電話番号	備考
1	会長	市原喜郎	東金市立日吉台小	市原喜郎	283-0803	東金市日吉台2-32-1	0475-55-5868	山武
2	副会長	近藤昌彦	柏市立中原中	近藤昌彦	277-0085	柏市中原1816-2	04-7166-5601	東葛
3	副会長	伊藤嘉章	柏市立富勢西小	伊藤嘉章	277-0825	柏市布施84-2	04-7132-2244	東葛
4	副会長	榑原英記	千葉市立幕張小	榑原英記	262-0032	千葉市花見川区幕張町4-781	043-271-7511	千葉
5	副会長	豊川ますみ	千葉市立轟町中	豊川ますみ	263-0021	千葉市稲毛区轟町3-5-14	043-251-4305	千葉
6	副会長	大庭通代	千葉市立若松小	大庭通代	264-0021	千葉市若葉区若松町360-1	043-231-0729	千葉
7	副会長	横山由佳子	千葉市立泉谷中	菊地友樹	266-0032	千葉市緑区おゆみ野中央4-2	043-291-6600	千葉
8	会計監査	細田稔	茂原市立富士見中	細田稔	297-0075	茂原市押日1468	0475-23-7145	長生
9	会計監査	野村英二	佐倉市立臼井南中	野村英二	285-1831	佐倉市染井野4-1	043-488-1020	印旛
10	顧問	迎寿美	千葉市立葛城中	鎌野繁	260-0853	千葉市中央区葛城2-9-1	043-227-5566	千葉
11	研究部長	渡邊宏幸	君津市立君津中	縄谷和利	299-1163	君津市壱師1-10-1	0439-52-0113	君津
12	研究副部長	田村真理	千葉市立扇田小	田村真理	266-0032	千葉市緑区おゆみ野中央1-26	043-293-2700	千葉
13	研究副部長	佐藤理恵子	四街道市立山梨小	土屋栄徳	284-0024	四街道市旭ヶ丘1-9-12	043-432-0506	印旛
14	研究副部長	岡本誠士	君津市立周西中	北見文雄	299-1142	君津市坂田560	0439-52-1517	君津
15	研究部員	内藤利枝子	千葉市立稲浜中	神戸重彦	261-0005	千葉市美浜区稲毛海岸2-3-3	043-247-8500	千葉
16	研究部員	淡路倫子	木更津市立岩根中	窪田宏一	292-0014	木更津市高柳3-40-7	0438-41-2096	君津
17	研究部員	白井隆太	館山市立館山中	吉田慎一郎	294-0037	館山市長須賀136番地	0470-22-0531	安房
18	中学校部長	後藤恒治	白子町立白子中	目羅伸夫	299-4215	長生郡白子町中里860	0475-33-2152	長生
19	中学校副部長	北島啓行	千葉市立誉田中	北島啓行	266-0005	千葉市緑区誉田町1-138	043-291-0012	千葉
20	中学校副部長	宮内雅史	市原市立菊間中	宮内雅史	290-0007	市原市菊間1850	0436-41-3618	市原
21	中学校副部長	吉田健	佐倉市立根郷中	高瀬裕	285-0807	佐倉市山王2-37-1	043-483-1000	印旛
22	中学校副部長	宮内百枝	旭市立第二中	加瀬政美	289-2504	旭市ニ2510-1	0479-62-0049	東総
23	中学校部員	平大樹	流山市立西初石中	高柴昭宏	270-0121	流山市西初石4-455-1	04-7154-3091	東葛
24	中学校部員	小嶋健一	松戸市立小金中	佐藤正大	270-0032	松戸市新松戸北2-16-11	047-341-0646	東葛
25	中学校部員	金井裕弥	君津市立周西南中	白井淳一	299-1151	君津市中野2-30-1	0439-55-0190	君津
26	中学校部員	依田実	船橋市立御滝中	掛村利弘	273-0853	船橋市金杉6-5-1	047-448-3102	船橋
27	中学校部員	船迫千春	松戸市立松戸一中	久保木晃一	271-0076	松戸市岩瀬587	047-363-4171	東葛
28	中学校部員	金谷淳子	旭市立海上中	大目智志	289-2604	旭市高生77	0479-55-2150	東総
29	中学校部員	屋代奏絵	船橋市立行田中	大場雅俊	273-0044	船橋市行田3-6-1	047-439-2118	船橋
30	中学校部員	榎本優希	千葉市立朝日ヶ丘中	穂積一道	262-0019	千葉市花見川区朝日ヶ丘2-4-1	043-273-6651	千葉
31	小学校部長	大庭通代	千葉市立若松小	大庭通代	264-0021	千葉市若葉区若松町360-1	043-231-0729	千葉
32	小学校副部長	児玉喜久子	佐倉市立佐倉東小	成田公敏	285-0042	佐倉市将門町7	043-484-0626	印旛
33	小学校副部長	福島理恵	柏市立豊小	縄田昌志	277-0863	柏市豊四季610-2	04-7174-0755	東葛
34	調査編集部長	江原雅之	佐倉市立臼井中	榎本泰之	285-0863	佐倉市臼井1530	043-489-5635	印旛
35	調査編集副部長	関口明快	南房総市立嶺南中	遠藤忠	299-2526	南房総市沓見2075	0470-46-2142	安房
36	調査編集部員	長野翔伍	船橋市立三田中	川崎博樹	274-0073	船橋市田喜野井2-24-1	047-477-0311	船橋
37	広報部長	清水俊也	千葉市立都賀の台小	清水俊也	264-0033	千葉市若葉区都賀の台2-13-1	043-251-1353	千葉
38	広報副部長	宮原尚	千葉市立高洲小	宮原尚	261-0004	千葉市美浜区高洲2-2-20	043-243-0169	千葉
39	広報部員	大野忠	千葉市立松ヶ丘中	伊藤芳仁	260-0807	千葉市中央区松ヶ丘町440	043-261-5261	千葉
40	情報部長	濱田勝久	千葉市立幸町第一中	荻原洋	261-0001	千葉市美浜区幸町2-12-7	043-242-1358	千葉
41	情報部員	藤田伸平	香取市立栗源中	齋藤史郎	287-0102	香取市岩部1051-1	0478-75-2034	香取
42	情報部員	君塚久美	千葉市立新宿小	山下敦史	260-0021	千葉市中央区新宿2-15-1	043-242-0631	千葉
43	事務局長	鈴木健一	千葉市立更科中	高野和久	265-0073	千葉市若葉区更科町2112	043-239-0030	千葉
44	事務局次長	海老原恭子	富里市立富里北中	山本典孝	286-0202	富里市日吉倉1515-31	0476-93-9508	印旛
45	事務局次長	古屋義和	市原市立有秋中	鎗田昭	299-0115	市原市不入斗1200	0436-66-1066	市原
46	事務局員	三瓶繁義	富津市立天羽中	高鍋元博	299-1608	富津市岩坂109	0439-67-0615	君津
47	事務局員	飯塚嶺	茂原市立東中	田中弘樹	297-0017	茂原市東郷301	0475-24-2141	長生
48	事務局員	佐藤翔	千葉市立作新小	遊間京子	262-0045	千葉市花見川区作新台7-2-1	043-257-0927	千葉
49	事務局員	吉井達哉	成田市立玉造中	荒川博	286-0011	成田市玉造3-7	0476-27-0677	印旛
50	事務局員	林仁美	成田市立成田中	濱谷昌人	286-0021	成田市土屋928-1	0476-22-0304	印旛
51	事務局員	土井美智子	千葉市立草野中	鈴木隆	263-0051	千葉市稲毛区園生町1397	043-253-8034	千葉

<支部理事>

No.	支部名	氏名	勤務校	校長名	郵便番号	学校所在地	電話番号	F A X
1	千葉	山田 克彦	千葉市立天戸中	山田 克彦	262-0043	千葉市花見川区天戸町1429	043-250-1166	258-7562
2	市原	山本 友子	市原市立八幡東中	山本 友子	290-0007	市原市菊間428	0436-43-7808	42-2659
3	習志野	池上 吐夢	習志野市立第七中	池上 吐夢	275-0022	習志野市香澄6-1-1	047-451-8151	451-8150
4	八千代	入江 良子	八千代市立村上中	平山 昌広	276-0028	八千代市村上1643-55	047-482-3121	482-3193
5	船橋	渡部 昭彦	船橋市立法田中	渡部 昭彦	273-0047	船橋市立藤原7-46-1	047-438-3026	438-3028
6	市川	長尾 諭	市川市立百合台小	長尾 諭	272-0832	市川市曾谷6-10-1	047-374-1811	374-1812
7	浦安	山田 裕弘	浦安市立堀江中	山田 裕弘	279-0043	浦安市富士見2-19-1	047-352-7272	380-4301
8	東葛飾	澁木 宏紀	流山市立向小金小	澁木 宏紀	270-0143	流山市向小金3-149-1	04-7174-1320	7174-3415
9	印旛	野村 英二	佐倉市立白井南中	野村 英二	285-1831	佐倉市染井野4-1	043-488-1020	488-1030
10	香取	数合 克之	香取市立東大戸小	数合 克之	287-0043	香取市大戸877	0478-54-2250	55-8611
11	東総	角田 直彦	匝瑳市立豊栄小	角田 直彦	289-2147	匝瑳市飯倉1847	0479-72-0531	70-1322
12	山武	林 正浩	大網白里市立白里中	吉田 浩	299-3211	大網白里市細草1385-1	0475-77-2840	77-4694
13	長生	細田 稔	茂原市立富士見中	細田 稔	297-0075	茂原市押日1468	0475-23-7145	25-9372
14	夷隅	芝崎 丈太	いすみ市立大原中	林 真一郎	298-0004	いすみ市大原7400-12	0470-62-4111	62-4112
15	安房	御子神 潤一	南房総市立富浦中	御子神 潤一	299-2416	南房総市富浦町青木249-1	0470-33-2075	33-4729
16	君津	渡邊 宏幸	君津市立君津中	縄谷 和利	299-1163	君津市壱師1-10-1	0439-52-0113	52-0104

<支部事務局長>

No.	支部名	氏名	勤務校	校長名	郵便番号	学校所在地	電話番号	F A X
1	千葉	大野 忠	千葉市立松ヶ丘中	伊藤 芳仁	260-0807	千葉市中央区松ヶ丘町440	043-261-5261	268-4842
2	市原	古屋 義和	市原市立有秋中	鎗田 昭	299-0115	市原市不入斗1200	0436-66-1066	66-8704
3	習志野	飯野 国夫	習志野市立第七中	池上 吐夢	275-0022	習志野市香澄6-1-1	047-451-8151	451-8150
4	八千代	佐藤 和幸	八千代市立大和田中	山根 弘行	276-0044	八千代市萱田町645	047-484-5071	484-6716
5	船橋	依田 実	船橋市立御滝中	掛村 利弘	273-0853	船橋市金杉6-5-1	047-448-3102	448-3872
6	市川	阿久津 美紀	市川市立福栄中	伊藤 浩	272-0137	市川市福栄3-4-1	047-396-0701	396-0702
7	浦安	伊藤 英樹	浦安市立堀江中	山田 裕弘	279-0043	浦安市富士見2-19-1	047-352-7272	380-4301
8	東葛飾	平 大樹	流山市立西初石中	高柴 昭宏	270-0121	流山市西初石4-455-1	04-7154-3091	7155-1031
9	印旛	藤卷 克彦	白井市立七次台中	小野 義勝	270-1436	白井市七次台1-21-1	047-491-1275	492-3018
10	香取	東 裕一郎	多古町立多古中	平山 博久	289-2241	香取郡多古町多古2920	0479-76-5261	76-5262
11	東総	羽根田 学	匝瑳市立八日市場二中	加藤 雅博	289-2144	匝瑳市八日市場イ1687	0479-72-1375	72-1376
12	山武	赤峰 研人	大網白里市立大網中	竹澤 英樹	299-3242	大網白里市金谷郷275	0475-72-0042	72-2988
13	長生	阿部 豊	茂原市立茂原中	永島 謙	297-0029	茂原市高師427	0475-22-2320	25-9373
14	夷隅	芝崎 丈太	いすみ市立大原中	林 真一郎	298-0004	いすみ市大原7400-12	0470-62-4111	62-4112
15	安房	山田 裕也	南房総市立富浦中	御子神 潤一	299-2416	南房総市富浦町青木249-1	0470-33-2075	33-4729
16	君津	金井 裕弥	君津市立周西南中	白井 淳一	299-1151	君津市中野2-30-1	0439-55-0190	55-0200

6 編集後記

コロナ感染症が流行してから、早3年が経とうとしています。その中で、GIGA スクール構想が急激に進み、一人一台端末、ICT の活用によりすべての子供たちの学びの保障ができる環境も整いました。その中で「協働的な学び」と「個別最適な学び」の充実が求められるようになりました。そして、より効果的な ICT 活用が問われてきていると感じています。

各支部の実践におかれましても、まだまだ制約のある中での研究の実践は大変だったと思います。令和6年度の関東甲信越地区技術・家庭科研究大会に向けての研究も手探りの中進めていることと存じます。コロナ渦だからこそ「できること」、「できないこと」を取捨選択し、やり方や発想を変えての研究を継続してすすめることが大切だと感じました。

今年度も皆様のご協力により「研究のまとめ」を作成することができました。この1冊にある多くの実践は、今後の活動に対する多くの方々の参考になることでしょう。原稿執筆に関わった先生方、本当にありがとうございました。

令和4年度「研究のまとめ」

発行日 令和5年2月9日

発行者 千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会

代表者 市原 喜郎

編集者 研究部

渡邊 宏幸（君津市立君津中学校）

田村 真理（千葉市立扇田小学校）

佐藤理恵子（四街道市立山梨小学校）

岡本 誠士（君津市立周西中学校）

内藤利枝子（千葉市立稲浜中学校）

淡路 倫子（木更津市立岩根中学校）

白井 隆太（館山市立館山中学校）

顧問

関下 裕文	毛利 洋一	中山 米司	吉原 サト	大塚 文恵	高山 玲子
田野 定男	田野キヨエ	福山 武夫	山本恵美子	菊池 和子	佐藤 紀夫
蜂谷 昭夫	板倉 英雄	大嶋 六彦	内山 猛	上原 利雄	野呂 徳則
石橋富士夫	大野 伸子	関 弘子	佐藤 純次	畠山 和夫	矢崎 聖二
鈴木 定夫	杉本 清	石野 清恵	菅籐 孝	町田 達雄	鈴木 芳朗
山本 嘉則	加藤 勇	松岡 和美	庄司 桂子	田島 治子	青木 清一
品地 敏明	宮坂 敬章	天野新太郎	飯塚 清	戸井 康子	相京 貢
浅岡 正人	小出 泰幸	萬崎 保子	井川富美子	山田 克彦	若林 雅夫
前田 真帆	大原 晴子				